桜船会だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

桜船会創立 20 周年記念号

■桜船会創立 20 周年を迎えるにあたって
桜船会会長　萩原大義
■創立 20 周年によせて
・三菱電機情報技術総合研究所
所長　千葉　勇
・三菱電機労働組合東部研究所支部
執行委員長　金子洋介
・桜船会初代会長　鈴木良春
■会員からの投稿
■第 20 回桜船会総会報告　福本行宏
■秋期バス旅行　桜井貫智
■お知らせ
■編集後記

第 29 号
発行日：2012. 10. 19
発行者：桜船会
発行責任者：萩原大義

桜船会創立 20 周年を迎えるに当てって

桜船会会長　萩原 大義

去る、5 月 27 日 情報総研大会議室において開催されました第 20 回桜船会総会時、平成 24 年度役員選出で会員の承認をいただき、会長を務めることになりました。よろしくお願いいたします。

平成 15 年入会し、幹事、副会長、事務局長を会員はじめ会社、労組の方々の温かいご支援のもと務めることができました。心よりお礼申し上げます。

桜船会の創立 20 周年記念という節目の年に会長を務めることになり大きな喜びと名誉のことと思い、精一杯務めさせていただきます。桜船会が創立 20 周年を迎えるに当たり、ご挨拶申し上げます。

三菱電機の OB 会は、北は札幌、南は九州まで 29 の会があり、約 1 万人の会員が各々OB 会で活動しております。

桜船会は、1993 年 3 月 28 日にこの大船地区に勤務し、定年を迎えられた「定年退職者の集い」として、24 番目の OB 会として、産声を上げて以来、20 周年をめでたく迎えることになりました。まずは、会員の方々と共に 20 年の歴史をお祝いし、慶びたく思います。

設立に当たりご苦労された鈴木良春初代会長はじめ、会の発展にご尽力いただいた郷原重雄、中村士朗、安達準三、矢田雅敏および澤野徳行の会長各位、役員の方々、そして桜船会に温かいご理解とご支援をいただいた会社ならびに労働組合の関係者の皆様に、あらためて深く感謝いたし、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

昨年の 3 月には、過去経験したことのない未曾有の東北大震災、原発事故災害に襲われ大変な年でありました。災害に遭われた方々には、心からお見舞申し上げます。震災後 1 年半が経過しておりますがその復興には、全国民が一丸となり力を合わせて取組んでまいりました。しかし、その大きな傷跡が中々解消されないのは、誠に残念なことと思います。我々OB 会として出来ることは、取り組んでまいりたいと思います。

国際的な経済不況や不安、国内での増税、税と社会保障一体改革等ニュースソースには、事欠かない日々が続いております。明るい将来が展望できないことを痛感しております。しかし、「ヒッグス粒子」40 年間の探索で 17 番目の素粒子が発見された明るい科学ニュースは、人類の英知の素晴らしさに大きな感動を覚えざるを得ません。

また、我々が携わってきました電機業界の状況は、決算報告等収益面で、企業格差が目立っております。

そんな中、三菱電機は、現役の方々のご努力により揺ぎ無い業績を確保されていることに敬意を表したいと思います。

現役のころ、急成長しており好業績を上げている会社の企業経営についての講演で、社内的には「我が社には、明日がない」との危機感を常に持て、との社員教育を行っているとのお話を聞きました。そんな会社でもこの不況の波には勝てず収益の悪化で「選択と集中」を掲げ企業改革を行っております。

三菱電機は、十数年前に「選択と集中」を掲げ改革に取り組んでいたことが想い浮びます。三菱電機に籍を置いて、人生を過ごしたことに対し、改めて幸せと喜びを実感し、過ごしております。

我々、定年退職者を取り巻く諸環境は、益々厳しくなっております。10 年前 60 歳以上の人口は、17%で 6 人に 1 人が高齢者でしたが、現在 30%を越え、3 人に 1 人が高齢者です。高齢化社会を迎えている中で、高齢社会に率先して参画し、活力ある充実した人生を如何に創出していくかが問われることになります。

余談になりますが、昭和 33 年に入社した我々男女 20 名は、「ささ船会」という同期会を結成して、旅行、懇親会等で親睦を図ってきました。定年後も集まっております。この 5 月 28 日に開催され、女性の方で 50 年ぶりに参加し、大船製作所が IT の最先端技術を担う研究所に大変貌したことに驚いておりました。青春時代を過ごした工場を視、懐かしさを噛みしめている様子が印象的でした。これも、同期一同が健康を維持し、充実した人生を過ごされている証と思います。

創立 20 周年を機に OB 会として、諸行事の活性化、諸活動の活発化をさらに進め、情報化の時代に相応した情報システムの構築等、会員への情報提供、さらに会員同志のコミュニケーションの場を提供できればと考えております。

会員の皆様の一層のご理解と活動へのご参加をお願いいたし、皆様の益々のご健勝を祈念し創立 20 周年のご挨拶といたします。

桜船会創立 20 周年に寄せて

情報技術総合研究所長　　千葉　勇

平成 23 年から情報技術総合研究所の所長をしております千葉と申します。まずは桜船会創立 20 周年おめでとうございます。

ここまで会が存続するには会員の皆さまの結束と運営にかかわった方々の熱意がいかに強いものであったかを感じ入っております。

卒業された方々の会の結束の堅さというものは、現役のときに、いかに職務に励まれたかが、大きなバロメーターになるということを聞いたことがあります。20 周年を迎えられたということは桜船会の会員の皆さまが、いかに現役のとき職場を愛してお仕事に励まれたかという証であり範とさせていただきたいと思います。

また、今の桜船会の会員の方々を表す言葉として「矍鑠」がふさわしいと思っています。「矍鑠」の語源は後漢の名将軍・馬援が戦陣への参加を申し出たが老齢を気遣った光武帝がこれを許さなかった。馬援は甲冑を着て颯爽と馬に乗り皇帝に拝謁したところ、光武帝は感嘆して「矍鑠なるかなこの翁」と言い参戦を許可し、馬援は大いに戦功をあげたことにあるそうです。

私の所長就任の 3 週間前には東日本大震災が起こりました。まずは十分な電力がない状態でいかにして所を運営していくか、が大きな重荷として圧しかかっておりました。その時にある先輩から「こういう時に所長になるということは偶然ではなく、選ばれたと思い込んで自分の思う通りにやったらよい」とアドバイスをいただきました。大変勇気づけられる言葉でやはり人生を積んだ方の言葉には人を動かす重みがあると思いました。

なんとか、今年 2 年目になりまして去年できなかった「桜まつり」を晴天の下行うことができました。多くの桜船会の皆さまにも来ていただき、お言葉をかけていただけました。歴代の所長の重要な職務のひとつとしてこの桜まつりを天気の良い時に無事に執り行うことがあると伝え聞いていまして、これでひとつの役目を果たしまして、ほっとしております。

今年になりましても、大船地区をとりまく状況としてはまだまだ難局が続き決して安心できる状況ではありません。しかし、桜船会の皆さまは戦後の混乱期を含め数々の困難に打ち勝たれて我々の礎を築いていただきました。

まだまだ未熟な私どもですが皆さまを見習い少しでも良い伝統を次の世代に残そうと決意しております。今後とも「矍鑠」として現役を指導していただけることを望み、また皆さまのご健康と桜船会の発展を祈念して、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

▲2011 年度「桜まつり」

桜船会創立 20 周年に寄せて

労働組合東部研究所支部 執行委員長　　金子洋介

桜船会創立 20 周年、誠におめでとうございます。

心よりお慶び申し上げます。また、桜船会の皆様には、ご在職中より労働組合の活動にご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

桜船会が創立された 20 年前は、ちょうど大船地区が大きく変化している頃でした。照明事業の分社化と掛川地区への移転により、研究所主体の組織構成となり、人員も現業中心からエンジニア中心となりました。その変化に合わせて、労働組合も 1994 年に「大船支部」から「東部研究所支部」に改称し再スタートしています。このような時期に、大船地区の社員ＯＢ会として桜船会が創立されたことは、同じ地区に勤務していた方々が職種を問わず交流を深めることができるという点で、とても意義深いものであったと考えています。

また、この 20 年間で社会環境も大きく変化しました。核家族化の進展や一人暮らし世帯の増加により、家族や地域の繋がりの希薄化が指摘されています。また、働き方や雇用形態の多様化により、職場における繋がりも弱まってきています。しかし、昨年の東日本大震災の後に「絆」の大切さが再認識されたように、人は周囲との繋がりを通じて心のやすらぎや充実感を得ているということを忘れてはならないと思います。

人々が安心できる快適で充実した暮らしを営んでいくために、地域や職場をはじめとした様々なコミュニティの再生が求められています。労働組合においても、組合員がそれぞれの繋がりを大切にできるよう、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現を重視した活動を展開しているところです。

このような中で、社員 OB の方々の繋がりを深めるために意欲的に活動されてきた桜船会が果たされた役割は大きかったのではないかと思います。

これまでの活動にあらためて敬意を表するとともに、これからの益々のご発展を祈念申し上げます。末筆ながら、桜船会の皆様のご健勝とご多幸をお祈りしつつ、お祝いの言葉とさせていただきます。

桜船会の歩み ▶

桜船会創立 20 周年に寄せて

桜船会初代会長　鈴木良春

20 数年前の設立準備会を開いた頃を想い出し、当時参加された方は、ほとんど旅に出掛け現在は数名しか残っていない、一寸寂しいが・・・・・・・。

私も定年後 30 年なり、この 5～6 年ほど欠席していますが、桜船会のお世話になっています。会報を楽しみに読ませていただき、役員の皆さんの活動が良く解ります。

年々会員も増え行事等も大変だと思います。気軽に参加し、昔の仲間と顔を合わせ楽しい一時を過ごすことこそ本会の目的だと思います。

最後に皆様のご健康とご発展をお祈りいたします。

■定年退職者の会の名称（公募）

桜船会

応募総数 32 件、
1 次選考で 7 件通過
2 次選考（投票）で決定
「桜船会」7 票
「菱萠会」6 票
「輝船会」4 票

年度	1992	1993	1994		1996
会長	設立世話人会	鈴木良春		郷原重雄	
	世話人会メンバー：17 名				

■大船地区「定年退職者の会」
設立世話人会発足

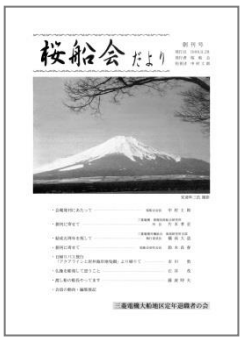
情電研・総務部
労働組合・大船支部

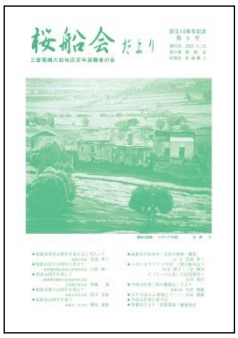
中村一夫
郷原重雄
田畑富士夫
二見喜一郎
稲葉伊代吉
鈴木良春
市川　勇
武川良美
中村文尚
森　茂治
堀場　充
米倉五郎
中村士郎
奥野佳子
原田房枝
三浦和夫
正木吉重

■1993　第一回総会：桜船会設立

▲設立総会

■桜船会のコンセプト
堅苦しさのない、
誰でも気楽に参加できる会





1998
桜船会だより創刊号

2001 懇親会
琉球舞踊

2007
科学未来館

2008 エアーパーク

2001
創立 10 周年記念号

1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
中村士郎			安達隼三			矢田雅敏	
235				270	293	312	

■1998
・「桜船会だより」創刊号
・発行編集班メンバー
事務局長　：市川　勇
編集責任者：浅田三郎
編集委員　：奥野佳子
：田中知衛
：矢田雅敏

・桜船会ロゴ制定

桜船会

ロゴ選択　：奥野佳子
・日帰りバス旅行
アクアラインと
岩井海岸地曳網
・秋の懇親会
柳亭市馬師匠「小噺」
ソシオテック・ウインド
オーケストラ

■1999
・リニア見学バス旅行
・春の観音崎ハイキング

■2000
・桜船会専用事務所開設
・秋季・一泊バス旅行
柿田川湧水と旭化成大仁
酒類工場見学

▲五景館での懇親会

・秋の懇親会
和太鼓グループ「禅」

■2001
・桜船会創立 10 周年
・ハイテク体験バスツアー
江戸博物館と
日本未来科学館
・秋の懇親会
琉球舞踊
児玉治子舞踊研究所
地歌＋三線：五木田秀夫
三線：藤倉恭子

■2002
・秋季バス旅行
ハイテク実感エアーパーク
・秋の懇親会
小田原の民話を語る
・春の行事
鎌倉・衣張山ハイキング

■2003
・秋季バス旅行
白糸の滝・忍野八海
・秋の懇親会
日舞「秀の会」
・春の行事
皇居一般参観

■2004
・秋季バス旅行
南足柄・丹沢湖散策
・秋の懇親会
「鶴見マジッククラブ」
・横浜港ウォッチング
・会旗制定

桜船会

デザイン：友澤　久

2006 箱根（芦ノ湖）

2007 大内宿

2008“ソラエ”

2010 上高地

■2006：桜船会だより編集作業第 17 号から「Word」化
■2007：第 19 号表紙のカラー化

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
矢田雅敏			澤野徳行				萩原大義
322	326	325	328	329	324		315

■2005
・秋季バス旅行
南アルプス・蓼科温泉
天望館一泊の旅
・秋の懇親会
「紙芝居」：岩沢千代松＋
紙芝居文化推進協会
「イセザキ座」
・春の行事
鎌倉十王岩ウォーキング
・会員総数：300 名突破

■2006
・秋季バス旅行
箱根・伊豆五景館一泊の旅
・秋の懇親会
ハーモニカ演奏：「村岡ハーモニカメイツ」
・春の行事
ANA 機体工場見学

■2007
・秋季バス旅行
鬼怒川・東武ワールドスクェアと大内宿・
・秋の懇親会：「津軽三味線ライブ」：影澤琇若
・春の行事：国会見学

■2008
・秋季バス旅行
竜ヶ岩洞と稲沢製作“ソラエ”見学
・秋の懇親会
「マンドリン演奏会」
マンドリン：肥沼成明
ギター　　：大江健一郎
・春の行事：「鉄道博物館」見学

■2009
・秋季バス旅行：「小江戸の町“川越自由散策”」の旅
・秋の懇親会
・春の行事：「鎌倉の谷戸歩き」

■2010
・秋季バス旅行：上高地散策
・秋の懇親会
・春の野外行事
：吾妻山・菜の花

■2011
・秋のバス旅行
スカイツリー遠望と都内庭園巡り
・秋の懇親会
・春の行事
横須賀軍港巡りと戦艦「三笠」の見学

■2012
・秋季バス旅行
草津温泉と志賀高原散策

2011 スカイツリー遠望

思い出　旅行　いきいき

創立 20 周年記念号には、会員の皆さまから多くの投稿をいただきました。

桜船会と私　矢田雅敏
桜船会だより　丸山健一
船電時代の思い出　伊藤興志夫
教育時代の思い出　1963 年入社同期会
昭和の職工学校　清水正次
船電女子バレー部の昔話　田邉浩二
郷里を離れた半世紀　島　憲一
大船の思い出　笠置　紘
三菱電機入社、職歴と退職、その後　佐藤菊男
30 年前の中国よもやま話　三上龍夫
二兎を追う　稲垣勝美
私の健康法　池田秀行
済州島旅行記　永井頼光
オリエント急行の思い出　浅見武彦
父の最期の地を訪ねて　春原　猛
写経三昧　竹中利一
花を描く（CG）　二木盈行
国際語エスペラントと共に　柴山純一
わたし流のセカンドライフ　木村　弘
私の仕事はホームマネージャー　安藤純一
定年後 10 年経過　石塚幹夫
関東ふれあいの道　富山勝巳
わが戦争の記憶　川村利正
退職して早 3 年　若林正男
金魚を飼って最近思っていること　岡田光生

桜船会と私　矢田雅敏

平成 5 年に誕生した「桜船会」が 20 年の節目を迎えることはご同慶の至りです。

私は会発足よりの会員ですが、平成 8 年より初代会長鈴木良春様のお誘いで、役員に担ぎ出されました。以降、幹事 2 年、事務局長 4 年、会長 5 年を続けました。結局、役員合計 11 年の長きにわたり続けた次第です。

私が会長を受けた時は、会員も 300 名を越える勢いでした。その間、多くの人に助けられ、大役を果たすことができました。役員を降りた平成 20 年以降も、会の行事には積極的に参加させて頂いております。平成 23 年度の春の行事「横須賀軍港めぐり」では、原子力空母「ジョージ・ワシントン」の迫力にしびれました。ただし、艦載機の厚木基地への飛来で、まいっています。私の後をお願いした澤野会長には、見事な会の運営で桜船会が益々発展したことは誰もが認めるところです。長い間ご苦労さまでした。これからは、萩原新会長を中心に良い企画を練り、実施されることを期待しております。桜船会の益々のご発展を祈ります。

桜船会だより　丸山健一

創刊号（1998.11.28）より 29 号の発行おめでとうございます。

平成 5 年に設立されて以来、多くの諸先輩方の力量に支えられての今日があります。『継続は力なり』を実感してやまない昨今で、精読すると執筆者の会話の癖が笑顔とともに輝きます。

懇親会は、毎回楽しみにしている集いのひとつです。限られた時間の中で、効率の良い会話を考えて臨んでいますがアルコール好きの小生には無理なようです。事務局だより・編集後記も精読しています。吾妻山への散歩も月に数回になりました。健康維持には努力が必要になりました。末筆ですが桜船会のますますの発展を祈念いたします。

船電時代の思い出

伊藤興志夫

私は昭和 49 年 4 月 1 日に大船製作所(船電)に配属されました。同期は男女合わせて 64 名。細かい数字までよく覚えていると思われるかも知れませんが、手元にある船電時報の「かがやき」52 号から引用しました。

入社後、仮配属までの４ヶ月間は宮前にあった照心寮に入りました。寮生活は生まれて初めての体験で何事も珍しいものでした。当時の照心寮は自治寮で金型設計の登尾さんが寮長をされていました。入社して４ヶ月間は工場の製造部門を中心に現場実習をしました。

安定器工場では充填剤の独特のにおいには参りました。このときの班長さんが、桜船会の澤野前会長でした。また蛍光灯工場では 2 交替を経験し、当時、新たに社内製作された 40W直管の自動包装機の試運転を横目に見ながら、若い女性たちと一緒に包装、梱包作業をしました。早番は午前 6 時～午後 2 時まで、遅番は午後 2 時～午後 10 時までで、朝型の私には遅番は就寝時間が遅くなり、つらい日々でした。当時の班長さんは、桜船会の副会長の宗田さんでした。

休日には、白百合寮や若葉寮の若い女性たちと、体育館でレクリエーションを開催してもらい、つかの間の青春を謳歌しました。

そうこうするうちに、現場実習も無事終了して、8 月の盆休み前に仮配属が決まりました。ところがあにはからんや、経理課に仮配属が決まり、これから嫌いな数字とお付き合いしなければならないかと先が思いやられました。

仮配属された経理課は課長さんが春日井さん、副課長さんが同窓の望月さん、所属のグループは原価第二グループで主任さんが石井進さん、直属の上司兼教育係には珠算と暗算が得意な川村さんが、また他には一見厳しそうなお顔ですが、実際は心優しいお姉さん的存在で、コーラスをやっておられた溝口さんがおられました。

他のグループには会計グループの相澤さん、清野さん、外山さん、加藤さん、大村さん、石井芳子さん、金原さんが、また原価第一グループは横山さん、新明さん、小川さん、渡辺さんがおられ、調査グループには小原さん、石井英一さん、根本さん、河野さん、などそうそうたるメンバーがおられました。この原価グループで原価計算というものを初めて知り、年 1 回の評価替えという標準製造原価の一斉更新を経験し、毎日遅くまで残業や休日出勤をしました。また遊びでは一泊懇親旅行で熱海の東海荘に泊まり、翌日は富士箱根ランドでアスレチックをしたこともありました。

経理時代の社員旅行

経理課には 8 年間在籍して、その後、昭和 57 年に国分さんが課長をされていた資材課に移動しました。資材課では資材計画と成型品の調達を担当しましたが、専門用語を覚えるのに一苦労しました。直属の上司は資材の生き字引の木村さんでしたが、スタッフ組織としてコストセンターがあり、センター長の森田さんからはコストについて、いろいろ厳しく教えていただきました。また当時の菊川照明に半年間駐在して特命事項として調達管理の改善活動もしました。

教育時代の思い出　1963 年教育生同期会

昭和 61 年にはリストラが進む船電から相電資材課に転任、平成 5 年にはまたまた相電のリストラで、今度は関西の神電資材部に転任しました。神電在勤中には、例の阪神淡路大震災も経験しました。

平成 12 年にやっと本社に戻り営業本部、監査部、健保組合と渡り歩き、平成 20 年に定年まであと 2 年を残して早期退職をし、社会保険労務士事務所を開業して今日に至っています。休日には丹沢の低山、中山に登って体力増強に努めている今日この頃です。

桜船会に入会し総会や懇親会等でなつかしい諸先輩にお会いできることが楽しみです。桜船会も設立 20 周年とのことで、役員の方々もボランティアとはいえ、なかなかできることではありません。ここに厚くお礼申し上げます。

これからも 30 周年、40 周年、50 周年と末長く桜船会が続かれますことをお祈りしてペンを置きます。

なお、このたびの寄稿では記載された方のお名前は、すべて実名にさせていただき、当日の様子を少しでも思い出せていただければと思いました。

筆者の近影

1963 年入社同期会は、詫摩教官、長窪総務課員（当時）途中退職者（6 名）も含め 16 名で、年に 1～2 回一泊旅行を行っております。この一泊旅行の中で出た教育時代の思い出話は沢山ありますが代表的なものだけを書きとめます。

1. ハツリ作業で、食器が持てないくらい手が腫れてテーブルに食器を置き左手で食べていたこと。
2. 同じく教育実習のヤスリ掛けでは、我々がやると「かまぼこ型」になり何度もやり直したこと。
3. 当時は上下関係が厳しく、先輩が食堂に来る前に弁当、お茶を先輩の指定席に準備しておかなければ、正座説教を受けたものです。
4. 鎌倉山までの往復マラソン（約 8 ㎞）がきつかったが、帰りは女子社員が裏門で迎えてくれ、その前後だけで格好つけて走った。
5. 一番きつかったのは、御殿場の青年の家での合宿訓練で、早朝からのマラソンと富士登山だった。
6. 蛍光灯の女子社員（当時 2 交代勤務）の交代時間に品定め（言葉が悪いかな）したことを思い出す。
7. 教育教官で、印象に残っているのは、阿南教官（後の講談社社長）外山教官（共に故人）、同期会に毎回出席してくれる詫摩教官である。

昭和 40 年頃の大船の街

それぞれにいろいろな思い出がありますが、教育時代の、教官、職場の諸先輩の方々のご指導によって我々は成長し、会社生活、社会生活を大過なく過ごすことができました。それらの糧を後輩の指導に当てることができたのも教官、諸先輩の方々のお蔭と大変感謝しています。同期は、ほぼ全員が地元自治会など、会社生活で培ったノウハウを埋もれさせることなく、まだまだ現役でがんばっています。

昭和の職工学校

清水正次

昭和 24 年進学を断念した私は、迷わず三菱電機大船工場へ就職の願書を提出しました。

この年は進学より更に厳しいと言われる就職難時代で、街には美空ひばりの「悲しき口笛」が流れて居ました。採用試験の学課を通過し、二次試験と称する面接を受け、15 名が養成工として採用されました。

養成工教育は 3 年間で、午前は学科（英、文、数学、物理、化学、製図等)、午後は実技（工具類の基礎的使用方法と訓練、汎用機械の使用訓練、体育等）

初日には教科書と工具が支給され、併せて作業服の上下各１着も支給されました。

学科は専用の教室で二階が食堂であったと記憶しています。その二階こそ各種文化活動の拠点で、例えば書道の展示会場であり、バンド演奏、ソーシャルダンス会場であり、時に労働組合の大会が開かれます。それぞれの会のリーダーや講師には養成工の大先輩が名を連ねて居ました。随分沢山の部が活動していたように思います。「大船文芸」あり「お花」「奇術部」「俳句部」その他、養成工には友和会と云った具合です。学校みたいだなと思いました。

実技はハンマー振り

実技は第 8 工場です。当時中央の道路は公道で、板塀によって仕切られ中程だけが行き来できたのでした。第８工場の裏側（旧商研辺り）は離れ山と云う丘で、第２次大戦中は地下工場であったとか。(後に鎌電の土地造成に使用)

実技の第一は、1 ポンドのハンマーを右手に、左手に鏨を握り、笛に合わせて打ちおろす。万力にはさんだ鉄材を切断するのですが、左手で握った鏨の頭にハンマーの頭を当てる事さえ容易ではありません。当然自分の拳を叩いてしまいます。

やがて、全員が目を瞑っていても力一杯振り下ろせるようになりました。

定規等は自分で造ります、直角定規、これは自分の作品の基準になります。

板金関係のまとめでは､約５センチの正５角型を５ミリ厚の鉄板にけがき、それぞれを雄型、雌型に切り抜き、どの位置からでも「そろり」と通過出来ること、所謂「亀の子」です。

朝鮮戦争による偏光板特需

昭和 25 年に始まった朝鮮戦争は、私達にも大きく影響し、偏光メガネの生産で、女性の大量採用があり、養成工は私一人を残して、他は全員偏光板工場へ応援に行く事になりました。私は大先輩の下、機械工場で実習させて戴く事になり旋盤などを扱い、旋盤のバイトやボウル盤のキリの研磨等に自信を深めて行きました。

学科で教わったことは、殆んど忘れてしまいましたが、実験で知った硫黄やアルコールの生態、偏光板の原理と実験等は記憶に新しいです。

和歌の断片は忘れない

国語で習った万葉集の歌の数々は今でもふっと思い出します。

「憶良らははやもまからむ児なくらむそのかの母も吾を待つらむぞ」（山上憶良）これは、後輩の結婚式でスピーチに借用しました。

「防人に行くは誰が夫と問う人を羨しとおもふもの思いせず」（詠人不知)。

このほか、後日和歌に親しむ様になった根源がここにあります。

夜学に通う事は堅く禁じられていました。

しかし、誰からともなく夜学への声、私も夜間高校二年へ編入試験を受けました。年齢から言って当然と考えたからです。

就職難から採用難へ

偏光メガネの後は蛍光灯のブーム到来で、女子の大量採用となり、女子寮の建設も加わり、工場の雰囲気は一変しました。当然クラブ活動も変わりフォークダンス、スクエアダンス全盛の時代となります。

てっぺん会のこと

時は忘れてしまいましたが、山仲間が集まり、山岳部を作りました。

工場次長に顧問就任をお願いしたところ､「山岳部ではまずい、ワンダーフォーゲルにしよう」（他場所関係者の遭難事故が起因か）とのこと、彼は大学時代山岳スキーのパイオニア。会の愛称を「てっぺん会」としました。リーダーは代わっても実績を積んで、今に続く「テ会」です。

船電女子バレー部の昔話　田邉浩二

卒業旅行・工手補誕生

養成工卒業を控えて、12 月の数日、名古屋の工場見学と京都、奈良へ修学旅行に行きました。
父の一帳羅のオーバーと靴を借り、名古屋工場の無人ミシン針工場と戦火も生々しい穴の開いた煙突を見学しました。奈良では刀鍛冶「菊一文字」の白鞘を、また若草山からの眺めを堪能し心に納めました。

16 歳の少年は 3 年の間、随分大勢の方にお世話を戴き、ようやく工員のスタート点に立ったのでした。

身分は工手補。1 日 7・5 時間 6 日労働でした。週休 2 日。全員月給制実現までにはそれから長い年月を要しました。

身分制度の改訂と時間短縮とは複雑に絡み合っていて全社的に厳しい取り組みが必要でした。

うめくさ

あれから 60 年余り。ハンマーの傷痕も消え、記憶も薄れつつあります。

当時大船工場の花形製品は、世界に先駆けたフェライト。OP 磁石を基幹とした選鉱機。ダイヤトーン・スピーカー。テレビのフェライトコアや蛍光灯のランプ・器具・安定器等でした。

その頃、庭に一枝挿し木をした「つつじ」は年々成長し、花を咲かせ、狭いながら吾が家の雑草苑を飾り、今年も精いっぱい花を咲かせてくれました。

1970 年（昭和 45 年）全日本 9 人制バレーボール実業団女子選手権大会が名古屋市で 6／13～16 に開催された。船電女子バレー部は神奈川県の大会で優勝し代表として、他 3 チーム（ソニー厚木、森永製菓鶴見、新日本電気東京）と共に出場した。

全国より 47 チームが参加して 4 チームによる予選グループ戦があった。船電は、3 組目、長野県代表高木工業と対戦 21 対 15、19 対 21、19 対 21、1 対 2 で惜敗、敗者復活戦で石川県代表大聖寺精錬と対戦し 21 対 19、21 対 14、2 対 0 のストレートで破って決勝トーナメントに進んだ。

敗者復活戦の前、選手を集めて「我々は神奈川県の予選会で強豪と戦って優勝して代表になって来たんだ」とハッパをかけた。「ここで初心に帰って悔いのない試合をして来い」と檄をとばした。1 セット目こそ接戦であったが、2 セット目はのびのびと戦い大差で勝利した。県代表の他チームは新日本電気東京がトーナメントに進んだ。翌 14 日、中部電力長野と対戦し、惜しくも敗れてしまった。

私の記録には細かいデータは残っていない。この大会は三菱電機伊丹製作所が前年優勝の三菱自工京都を 2 対 1 の接戦で破り初優勝した。

女子バレー部が結成されたのは昭和 29 年頃、若い女子社員が中央通路で昼休みにバレーをやりだしたのがきっかけではなかったかと思われる。

それから 15 年、全国大会に一度は出たいと夢を持ち続けたが、県大会で殆ど勝てなかった。

昭和 45 年北鎌倉女子高からアタッカー2 人が入社してきた。 4 月の県新人大会に出場して見事優勝した。この勢いに乗って 5 月の県実業団予選大会に向け、5 月の連休に合宿を行い、チーム力を向上させて予選大会に挑み見事優勝し代表権を獲得した。

その後も良い成績を上げたと聞いたが、これを機に私は引退した。

▼＜実業団全国大会参加メンバー＞

監督：田邉浩二、コーチ：宮本義幸、マネージャー：都丸　健、主将：樋渡樋志津子

位置	番号	氏名	年齢	位置	番号	氏名	年齢
FR	1	佐藤紀子	28	BR	7	阿部幸枝	19
FO	2	沢内良子	20	BC	8	樋渡志津子	20
FL	3	高橋はつ江	18	BL	9	岸みどり	18
HR	4	細野一枝	18	S	10	石田千賀子	18
HC	5	松本正子	21	S	11	松浦祥子	18
HL	6	田中貞子	20	S	12	斉藤豊子	18

故郷を離れて半世紀

島　憲一

思い起こせば､1963 年 3 月 27 日水曜日と記憶しているが、当時の常磐線平駅（現いわき駅）を午前集団就職専用列車に不安と寂しさと希望（？）がひとつに重なり、友や親戚等に見送られ 15 歳の出発であった。列車が動きだしホームを振り返り見ると何故か信号灯だけがぼやけて見えた。

列車の中では、誰ひとり会話を交わす人がいなかったのは何故だろうか。上野駅到着 30 分位前だったと記憶しているが、春日八郎の「別れの一本杉」が車内に流れ、その瞬間、寂しさだけがこみ上げ目に涙が滲み、滲むだけならまだしも流れる涙に変わり隠しきれなかった。周りを見渡すと自分だけでなく全員といってよいくらい同じ情景であった。

翌年、井沢八郎が歌って爆発的大ヒットした「ああ上野駅」は集団就職の応援歌ではないかと思ったぐらいである。その歌詞の一部を書いてみると

どこかに故郷の香りを乗せて
入る列車の懐かしさ
上野は俺らのこころの駅だ
くじけちゃならない人生が
あの日ここから始まった

今でも耳にすることあるが、半世紀前を思い出さずにいられず、何故か胸が熱くなってくる。

ある日、上野駅の近くに行く機会があり、駅構外にあるモニュメントへ寄って来た。

上野駅到着後、戸塚安定所の方と大船へ向かう。大船に向かう途中、電車が途中駅停車せず通過するのを目のあたりにし、何故停車しないのか不思議に思ったことを思い出す（田舎者だったのですね)。
大船駅到着時、自転車で迎えに来てくれた人は阿南さん（後の講談社社長、故人）で、駅より徒歩にて三菱電機株式会社大船製作所の正門を入る。休む間もなく会社近くのバス停より鎌倉行きのバスに乗り降りたところが建長寺、ここがこれからの生活拠点になる寮、三菱電機鎌倉荘であった。

そして 45 年勤続、誰もが迎える定年という 2 文字、平成 20 年 3 月 31 日同期全員が定年退職する。

事情があって途中退職した友、不治の病で亡くなった友、今でも途中退職し、音信のつく友も集まり一泊で同期会を開催、今昔話に花を咲かせている。自分たちの同期って一番絆があるのではないかと同期全員が感じていると思う。

郷里を離れて来た5人は今でも仕事についている。（東北人は働き者なのですかね？）中でも私が 4 年間枕を並べて過ごした友は本当に何でも腹を割って話せる。今でも年 3～4 回の「事務所だより（近況報告)」を送ってくる。弁護士で弁理士でもあり、国際経済法学博士、横浜弁護士会会長、現・日弁連副会長等の要職に就かれ、同期としても誇りになる友である（私の顧問弁護士　笑い)。

定年を迎えて 5 年を過ぎようとしている中で「3キン」､「か行」を心の片隅に置き年を重ねて行きたい（生きたい）と思う。
「3 キン」とは、筋力（体力)、近所（付き合い)、金銭（経済感覚）のことで
「か行」とは
「か」: 感謝の気持ちを持って
「き」: 緊張感（人の集まるところに出る）を持って
「く」くよくよしないで（過去を引きずらないで)
「け」: 健康（規則正しく）に注意し
「こ」: 好奇心向上心（恋心）を持って
今後、この桜船会が、30 周年と年を重ねるごとに、会員の平均年齢（寿命）が高くなっていくことを願ってやまない。
最後に、この会の運営にあたり、役員はもとより、労組､MD ライフ､情報総研､近隣地区退職者の会他、関係方々のご支援に感謝の意を表します。

大船の思い出

笠置　紘

「桜船会」20 周年おめでとうございます。小生は定年時北伊丹製作所籍だったため本来、北伊丹のこのような会に入るべきかもしれませんが、大船にある会への思いが強く、入会させて頂いています。「桜船会」が 20 年もの長きにわたり、関係者の尽力によりいろいろな行事を遂行し、発展的に存続することに感謝するとともに、心からお祝い申し上げます。

大船は最も輝いていた時を過ごした街

今、大船に行くのは月に 3 度もあるかどうかですが、大船駅に降りると、なんとなくタイムスリップしたような、嬉しさ、懐かしさが心に広がります。もっと立派な街（東京や横浜・・）もあるし、故郷の街もありますが、それとは違ったものなのです。田舎の街から初めて都会の町にやってきて、東京へ赴任するまでの 27 年間、仕事はもちろん、遊び、恋愛結婚・・など、今思えば最も多感で、輝いていた時を過ごした街だからです。今住んでいる街にも増して、大船は小生の最も大事な街なのでしょう。

大船の商店街は世界文化遺産

大船の商店街は今も変わらず、賑わい、活気があり、買い物をするわけでもないのに時間があると行きたくなります。日本各地は大型店舗に押されてだんだん昔馴染みの商店街がなくなって行きます。小生の妻も新婚時代に買い物をしたこの商店街が好きで、よく話にでます。今茅ヶ崎市に住んでいますが、そこに行きたいと言うので、よちよち歩きの長女を連れて行ったことがあります。一軒一軒見ては歓声をあげ懐かしんでいました。見知らぬおばあさんが長女の耳を見て、「この子はお金持ちになれる」と言っていたのが嬉しくて今でも覚えています。「見知らぬ人へも気軽に声を掛けられる」という光景は各地でだんだん失われて来ていますが、この場所にはまだそれが残っています。長女はもう 2 児の母ですが金持ちには程遠い（？）ようです。最近友人に教えられ、市場の一角にある酒屋でワインを買って行くことを覚えました。ワイン蔵の中での亭主のワイン講釈を聞くのも楽しいものです。自分にとってはこの商店街は世界文化遺産に匹敵するものなのです。

鎌倉女子大生に大船の自慢

最近、鎌倉女子大生との交流があります。（誤解のないように。藤沢市、慶応大學、鎌倉女子大などが共催するイベントシリーズの中でのことです）ほとんどが大船に住んでいることもあり、孫に近い年齢の彼女らに、大船を自慢したくなるのです。

「大船には当時、300 軒位の飲み屋があってね。その中に 3 大ママさんが居たけど、それは美人だからなれるものではなくて・・・」とか、「寅さんの渥美清と蕎麦屋で隣り合わせてね。デイレクタらしき人が、目は小さくても遠くを見れる人をテーマに・・」とかで彼女らから「すごーい」などと言って貰って悦に入るわけです。よく飲み歩いたことも思い出です。

ともかくも誰にでも大船を語り、自慢したくなってしまいます。

好日荘で仲間と囲碁

桜船会のなかの分派と言うことで、好日荘の一室をお借りし、10 年近く、昔の仲間と月 1 回の囲碁会を楽しんでいます。実に楽しい時で、囲碁が好きなだけでなく、次のようなことがあるのでしょう。

・懐かしい大船に行ける。
・思い出の一杯ある好日荘に行ける。
・昔の友人と忌憚なく話せる。
・昼にあの懐かしい会社の給食弁当を食べられる。

三菱電機、桜船会の発展、仲間の健康を祈ると共に、大船の街が変わらず、栄えることを願うばかりです。

三菱電機入社、職歴と退社、その後

佐藤菊男

私は、尋常高等小学校 2 年を昭和 21 年（1946 年）3 月に卒業し、横須賀にいた長兄の薦めで船電の入社試験を受けるべく宮城県から上京して受験したところ、幸いにも合格して 4 月より養成工第 7 期生として採用されました。

同期生は、県内から 8 名、岩手県から 4 名、宮城県から 1 名の計 13 名で、当初、1 ヶ月くらいは教室での勉強がありましたが、その後は現場での実習がありました。

2 年生になってからは現場に仮配属となり、いろいろな仕事を覚え、3 年生を卒業してから、私は治工具工場に配属されました。治工具工場は各種板金の抜き型等をつくる部署で、意外とやりがいのある職場でしたが、この頃には同期生のほとんどは退社していましたので、寂しさも感じておりました。

当時、船電で生産していた製品は

1）OP 磁気内臓の自転車灯
2）電気こたつ
3）電気時計
4）ダイヤトーンスピーカー
5）選鉱機

等々で、照明器具の生産を開始したのは昭和 25 年からと記憶しています。

昭和 24 年には、伊丹地区で研究していた蛍光ランプの生産を船電で行うこととなり、25 年から本格的に生産することになりました。しかし、何せ手動生産のため、20、40W の生産が 1 日 150 本程度でした。

昭和 28 年には、アメリカのウェスチングハウスとの技術提携により中古の自動機が導入されてランプの大量生産が可能になりました。（名電でも WH 社と同等の機械を製作してランプの量産ができた）

私は昭和 28 年から鈴木先輩（桜船会初代会長）のもとでランプ工場のメンテナンスに携わってきました。永年ランプ工場にいたわけですが、昭和 62 年に船電営業に配転、63 年には、本社電材事業部に転勤し平成 4 年 4 月 14 日に 46 年間お世話になった三菱電機を定年退職した次第です。

後に、桜船会に入会させていただき、役員として会計を 2 年務めさせていただき、行事班としては桜船会初の宿泊旅行（五景館）も担当したことがありました。

話は前後いたしますが、戦後の寮生活で大変お世話になった先輩のことは、一生忘れることができません。

また、昭和 23 年に音楽部に入部しトロンボンを独習しました。

当時のメンバーは

音楽部創設者：大槻（故人）ギターからトランペットへ
ドラム：米倉、サックス：橋本
クラリネット：石井、トランペット：大槻、内田
サックス：根岸、トロンボン：佐藤でしたが、昭和 30 年には新入部員としてテナーサックス：澤野、トロンボン：横田ベース：黒川、ドラム：菅井、が入り、さらにクラリネット：島田等が加わり、桜まつり等の演奏には盛大な拍手をいただいたものです。

▼昭和 57 年 4 月：桜まつりにて

現在、私は「逗子スイングジャズオーケストラ」でトロンボンを吹いております。

また、内田氏は現在ジャズバンドを結成しています。

中国よもやま話

三上龍夫

「私は 1964 年に三菱電機に入社、大船製作所に配属されメタルハラドランプの開発・改良及び販売の仕事をしていたが、1979 年に突然本社海外営業所への転勤を命じられ、アジア地区への輸出業務を担うことになった。

当時の三菱電機は輸出にも注力し始め、社長室直属の組織として海外営業所を創設、広く社内から人材を集めていたようであった。そんな事情で私のような、いわば貿易実務の素人も召集されたわけだが、わけもわからないうちに韓国、台湾、香港をはじめとする東南アジア諸国での販促と市場開拓のため出張させられ、随分と戸惑い、苦労をした記憶がある。今となっては良い経験をさせて頂いたと感謝の気持ちが大きいが、当時は必死の思いであった。本社転勤 2 年後に当時のミシン事業部海外事業部兼任のまま転籍したため工業用ミシン事業の全体をみるようになり、国内やアジアばかりでなく、北中南米や欧州も這いずるように動き回った。従って世界のあちこちで失敗談など思い出は尽きない。その中でも 1980 年代初期、中国への市場開拓活動は強く印象に残っている。

私が初めて中国に出張したのは 1980 年だったが、当時は文化大革命（1966 年～1976 年）の余波がまだ残っており、世の中全体が殺伐として暗い感じに覆われていた。街中に人民服を着た人と自転車があふれ、全く色彩を感じない世界であった。

中国との商売はそれまで友好商社と呼ばれる中国からの指定された特定の商社を介してしか出来なかったが、1978 年 8 月の日中平和友好条約締結後は徐々にビジネスも自由にできるようになってきていた。中国は日本の戦後もそうであったように、労働集約産業の典型である縫製産業から復興しつつあったが当時の中国には性能の良い工業用ミシンがなかったので、優秀な日本製工業用ミシンを拡販する絶好の機会であった。

そこで当社は中国の市場開拓に乗り出し、中国機械進出口公司（通産省）や対外貿易進出口公司（外務省）の担当幹部に何度か会い、三菱製品の PR をしながら頭の固いお役人から注文（LC）を引き出す努力を重ねていった。中国は外貨を所有する政府が大量に輸入し、それを全国の縫製工場にばら撒くという方式だったので、一度に大きな契約ができて営業効率は良かったが、その代わり、全国に散らばった製品のアフターサービス等のフォローは至難の技であった。そこで中国人の手で技術フォローをしてもらい、かつ三菱製工業ミシンの PR をすることを目的に 1981 年の夏、技術交流会と称し、名電の技術者と一緒に大連、藩陽、長春、ハルピンを 20 日間余りかけてミシンを担いで巡回した。その時の「よもやま話」を 2、3 紹介したい。

この時は通訳を兼ねた友好商社の他にオーバーロックミシンや裁断機等の縫製関連機器メーカーと一緒に行ったので、10 人余りのキャラバン部隊という感じであった。当社は当時の名電副所長や北京駐在員も一部区間同行するという力の入れようで、新市場開拓の意気に燃えていた。

▲北京空港にて
左端が北京駐在員、右端は筆者でその左が名電副所長
中の二人は中国側の要人、背景の写真は人民服をきた
毛沢東と周恩来

大連で技術交流会を兼ねた展示会を数日実施した後、大連からハルピンまで旧満州鉄道で北上して行ったが、スピードが遅い上に、冷房もないひどい列車だった。我々は外国人しか乗れない 2 等車相当の軟車に乗せてもらったが、それでも座席は硬く、とても軟車とはいえない代物だった。長旅でお尻が痛くなり、立ったり座ったりを繰り返していた。真夏だというのに、大きな湯飲みの中にお茶葉がたくさん浮いている熱いお茶が出てくるだけで他に何のサービスもなかった。ある時たまりかねてビールを求めたら、特別だということで青島ビールを持ってき

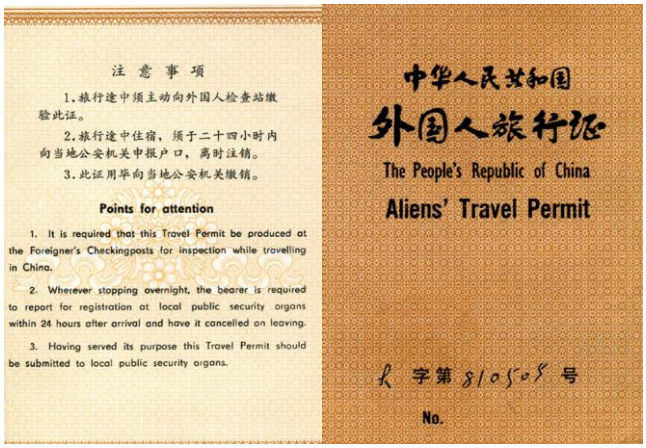
てくれたが、冷やしてないので生ぬるく不味いビールだった。

窓の外は建物がほとんど見えない雄大な原野が広がる長閑な風景だった。油をとるためだろうか、延々と続いている「ひまわり畑」も何度も見かけたが、その色彩には随分と癒された。しかし。この長閑な風景も日本の敗戦直後はソ連兵が突然侵入してきて、逃げ惑う日本人を追いまわす悲惨な風景があったとのことである。それでも、無事逃げ延びて帰国できた人は良いが取り残されて孤児になった人も沢山いたようであり、技術交流会に参加した縫い子さんの中にも見かけた。40 歳ぐらいの品の良い女性で日本のことをしきりに知りたがっていたが、いまごろ日本に戻って幸せに暮らしているだろうか？

技術交流会は、たいていの場合学校の講堂か教室を使って実際にミシンを使いながら説明する講習会形式で、生徒は各省の服装工業公司が駆集めた縫製工場の幹部、技術者、縫い子さんたちだったが、非常に熱心だった。幸い三菱という名前は、旧財閥のせいかほとんど全員が知っており、尊敬の目で見られたのは多いに助かった。

キャラバンの途中、仕事が終わったあと街中を出歩くこともあった。地方であっても北京や大連の大都市と同じく、どこも人と自転車があふれていた。夜になると家が狭いせいもあり、ほとんどの人が外に出て広場や道端で夕涼みをしていた。大人は縁台将棋とか太極拳、子供は地べたに座り込んで何かゲームに夢中になっていた。夏なのでスカートを履いている女性を何人か見かけたが、そのスカートをたくし上げて団扇で中に風を送り込んでいるおばさんを見た時にはびっくり、羞恥心も文化大革命と共に消失したのかと思った。

当時は外国人の個人旅行は許可されていなかったので、日本人を見かけることは皆無、若い中国人にとっては我々が初めて見る日本人だったろうか、じろじろ体中を嘗め回すように見られたのには閉口した。当時の中国で外国人が自由に移動したり、買い物をしたりすることは極めて難しく、今回のキャラバンに関しても全員、外国人旅行証というものを渡され、そこに書いてある場所以外の移動は禁止されていた。また、仕事に全く関係ない共産党員が監視役で終始行動を共にしていたので、うかつな行動はとれなかった。


注意事项

1. 旅行途中须主动向外国人检查站缴验此证。
2. 旅行途中住宿，须于二十四小时内向当地公安机关申报户口，离时注销。
3. 此证用毕向当地公安机关缴销。

Points for attention

1. It is required that this Travel Permit be produced at the Foreigner's Checkingposts for inspection while travelling in China.
2. Wherever stopping overnight, the bearer is required to report for registration at local public security organs within 24 hours after arrival and have it cancelled on leaving.
3. Having served its purpose this Travel Permit should be submitted to local public security organs.

中华人民共和国
外国人旅行证
The People's Republic of China
Aliens' Travel Permit
No.

また、お金も人民元は所有できず、ホテルや外国人専用のお店（友誼商店）だけで使える兌換券しか持たされないので、その辺のお店で簡単に買い物というわけにもいかなかった。ある時、誰かが人民元をどこかで取得してきて、それでアイスキャンデーを買い、皆で分け合った時のおいしさは忘れない。
しかし、お腹を壊した者が何人か出たのでそれ以来みな生ものは一切口にしなかった。

買い物で思い出したのが友誼商店で物を買うとお客より店員の方がえばっており、お釣りはテーブルに投げてよこす有様、これは北京でも天津でも同じだった。共産主義ではサービスという感覚が全く欠如していた。

「どさ回り」のような技術交流会も途中で松花江の洪水で一日足止めをくったりしながら、最終目的地のハルピンまで何とかたどり着いた時にはほっとした。ハルピンという名は女の子の遊び、お手玉の唄に出てくる文句なので以前からよく知っており、何となく親しみを感じた。

「一列談判破裂して日露戦争始まった」で始まり、「7 月 8 日の戦いに　ハルピンまでも攻め入ってクロパトキンの首をとり、東郷大将万々歳」で終わるこの唄は戦前生まれの人だったら誰でも知っているのではないだろうか。

猛暑の中で、いろんな苦労をしながらもこの技術交流会はなんとか無事に終了し、結果的には中国側にも大変喜ばれ大成功だった。三菱ミシンばかりでなく日本の縫製機械が中国市場に拡大する一つのきっかけになったのではないかと思っている。

その後も上海や他の地域でも展示会や技術交流会を実施しつつ地道な販促活動を続けた。そのお蔭か三菱工業用ミシンは軽工業品進出口公司や服装工業公司に高く評価され、その後　中国で最大のミシンメーカーだった中国標準縫衣機公司（西安）と技術提携の話が持ち上がり、それが名電等の尽力のお蔭で数年後に成就した時は非常に嬉しかった。

現在の中国は周知のとおり経済大国として将に日の出の勢いで発展を続けているが、30 年前はまだよちよち歩きの赤ん坊同様で、それが立派な大人に育ったのは、中国人自身の努力の賜物あったことは言うまでもないが、協力した日本企業の貢献度が非常に大きかったことを忘れてはならない。

定年後、北京、上海、西安等を観光旅行したが、どこも、30 年前とは全く違う都市に生まれ変わってしまい、中国の面影と魅力を失っていた。もう中国に行く意欲もないが、三国志や十八史略を読み返して古き良き中国を偲んでいる方が楽しく感じるのは歳のせいだろうか。

二兎を追う

稲垣勝美

“二兎を追う者一兎をも得ず”と慣用語にあるが、私は敢えて挑戦している。

それは短歌と俳句です。短歌を始めた動機は、平成 12 年から保護司をして担当の対象者との交信で短歌についての質問があり、それに対応するためです。当時の私の知識は百人一首程度なので、友人の指導を受けたが不足を感じ、NHK の通信講座で 2 年 3 か月研修した。その成果を試すため、月刊誌の「更生保護」に投稿し平成 19 年に「来月は晴れて自由となれる子の再犯いたす性をあはれむ」が新人賞に入選し感極まりました。

平成 22 年に保護司を退任しても短歌に未練が残り民間の香蘭短歌会に入会した。この会は新宿に本部があり、支部は全国に散在し会員は 500 人位らしい。毎月 6 首提出して選者の審査修正を受けて 4 首、月刊誌に掲載されるのを見るのが楽しみです。会員の作品や評価の状況と自分の歌の修正状況に興味があるからです。会員のレベルは 4 段階あって、私は最下段で足踏み状態です。また、活動の一部には各支部で行う歌会がある。これは各人が 1 首、作者名を隠蔽して相互に評価を発表し先生のコメントを頂く。終了後は飲み会で融和が図られていく。常に作歌という目標があるので毎日退屈はしない。その他に読売新聞の文芸欄に投稿した結果、昨年は「闇夜から飛び込みし虫部屋中を暴れて停まり蝉と化したり」が入選して自信がついた。短歌をマスターするには、まだまだで、文語と口語、仮名遣い、文語文法などの習得が不可欠で作歌しながら目標に向かって努力している。

二兎めの俳句は、平成 18 年に桜船会の方の勧誘により「しおさい句会」に入会した。

句会では作者名を隠して評価するが歌会と似ているし、隔月に吟行があり新しい場面での観察眼が養われていく。

俳句は、17 文字で季節と訴えたいことを斬新に表現することは非常に難しいと感じた。 4 年経過したがまだポイントを掴めない。しかし、広範囲の知識にふれ短歌との接点もあるので、やり甲斐があり継続するつもりです。

私の健康法　　池田秀行

昨年度の桜船会だよりに書きました日野原重明先生の「いのちの授業」の本を参考に自分なりに計画して実行してきました。早いものですね、もう 1 年が経ち毎日が楽しみでした。2012 年 5 月 27 日の桜船会の懇親会に出席させていただき、今回も楽しく、いろいろと良い話を聞きました。また、それぞれの人たちから私の実行内容を「桜船会だより」に投稿するように勧められたので、私が 1 年間やってきたことを書きます。

健康とは、体だけでなく心から健やかな状態のことです。これを維持するのは「人との出会い」で、それぞれの経験を話す「会話」が基本のひとつです。しかし、「人との出会い」は案外難しく、私は、毎朝二宮の吾妻山に登り腹式呼吸をし、他の人と話をするようにしています。

昼は、自分の住む街を知るためにウォーキングしています。「人との出会い」により、まだ知らない路地や場所の地図を描いてもらうこともあります。会話をすることで、身のまわりに楽しみの核を見出し工夫することで生活を楽しくしています。

他にも、大島　清著「定年後は若返る生き方」にある「カ・キ・ク・ケ・コ」を心がけています。

「カ：感動しよう」「キ：興味を持とう」「ク：工夫しよう」「ケ：健康づくりをしよう」「コ：恋をしよう」です。

日々を生き抜くことは自分の目標を達成し続けることだと思い、今後も続けていきたいと思っています。

思い出　旅行　いきいき

旅の話・三題

愉しい旅、好きなことのために出かける旅、どうしてもしておきたいことのために出かける旅

済州島旅行記　　永井頼光

今や日本では韓流ドラマが一大ブーム、その先駆けとなったのが「チャングムの誓い」で、そのドラマのロケ地として有名になった流刑の島が済州島である。5 月 24 日に 2 泊 3 日の行程で済州島に出発した。成田を朝 9 時 45 分に飛び立ち正午過ぎには済州国際空港に到着、約 2 時間 30 分の空の旅である。空港から用意されたタクシーに乗り約 20 分で宿泊先の済州オリエンタルホテルに到着。当ホテルは済州市の海岸線に建つ日系人がオーナーの老舗の大型ホテルである。

夕食は、旅行の目的の一つのアワビのフルコースを食べにホテル横の海鮮料理店（旅行会社の紹介）へ夕方 5 時に予約し出向いた。

アワビの刺身、オイル焼き、アワビ粥、サザエのツボ焼き、チジミ他で量的に食べ切れない。１人前フルコース 50,000 ウォン（日本円 3,500 円）。

食事を終えてホテルに戻りホテル内のカジノに直行、ホテルのルームナンバーを言って名札を貰いスロットマシンを楽しんだ。後で聞いたがカジノ内は飲み

物は全てサービスとのことでした。部屋に戻り窓から目の前の海を眺めると遠くイカ釣り舟の漁火が沢山見え日本的で郷愁をそそられた。

翌日はホテルで予約した日本語が堪能な運転手さん(金さん)の案内で１日観光。ちなみにタクシー代は１日貸切で 100,000 ウオン（7,000 円)。朝９時にホテルを出発し済州島の東端城山日出峰を目指す。
済州島は日本の佐渡島の 2 倍の面積に世界自然遺産が、３か所あります。ホテルを出てすぐ右に見える島の中央に位置する漢拏山（ハルラサン）と世界一の鍾乳洞万丈窟（マンジャングル）と日本の方向から昇る日の出が美しい最東端の城山日出峰（ソンサンイルチュルボン）の３か所です。

最初の見学場所である世界遺産の鍾乳洞万丈窟に到着。全長 7 ㎞のうち現在見学コースは、片道 1 ㎞の洞窟ですが、道は、でこぼこ周囲は暗く大変歩きづらく往復 50 分のお疲れコースでした。
但し、洞窟の幅は最大 23m、高さは最大 30mで、その雄大さにはびっくりしました。
万丈窟から東へ進み、その間、金さんの話をいろいろ聞きました。済州島は日本と馴染みの深い島、済州市の姉妹都市和歌山市からみかん、デコポンの苗木が渡り今や特産品となっている。
また済州島は漢拏山の噴火によってできた島で、火山岩でおおわれているため水田がなく米がとれなくてマッコリは粟だそうです。島全体が岩盤でできているので、地震が無く住みやすいそうです。ようやく最東端の城山日出峰に到着。
いつもは景色が素晴らしい峰だそうですが、あいにく曇天､それにもめげず標高 180mの頂上の展望台まで登り湾内を見回すと、その素晴らしさに満足感を覚えました。

城山日出峰を後にし、チャングムの誓いのロケ地済州民俗村に向かう。
途中、金さんのお奨めの食堂で黒豚の焼き肉をサンチェで包み韓国ビールで舌鼓。

民俗村は昔の政治の中心地で、現在の観光施設も 16 万㎡の広大な民族文化空間で１周して約２時間。今も残る茅葺きの建物が、いかにも日本的な印象でした。帰路に金さんから韓国の車の話を聞きました。車の数が多く 25 万台（2 人に 1 台）で、ほとんど韓国の車でヒュンダイが圧倒的に多い。
外車は関税が非常に高いそうです。
又ガソリンも日本が 150 円の時、韓国が 170 円で非常に高い。今年の秋に取得税が安くなる(TPP の関係)ので、金さんはトヨタのハイブリッドに買い替えるそうです。
午後 5 時にホテルに到着。夕食はホテルの並びの海鮮料理店で海の幸三昧。済州島の人は鯖が大好きで、鯖の刺身、鯖の塩焼き、ヤリイカの刺身等となに、しろ量が多い。料金はビール、マッコリ、焼酎付きで１人 40,000 ウォン（2,700 円)。翌日は最終日でホテルを10時にチェックアウトしてホテルの近くの土産店をまわり、済州漁港近くの食堂に入りお刺身盛り合わせ 30,000 ウォン（2,100 円）を注文するとカサゴ、サバ、イカ、サメ、ホヤ、サザエ他１１皿の刺身にサンマの塩焼きが出てきたのには驚いた。

今回の済州島の旅行は食べ歩き記になりましたが、運転手の金さんは、ゆっくり時間に余裕をもって漢拏山の登山、フィッシング、ゴルフ等の自然に接する旅行にまた来て下さいとのことでした。
桜船会の皆様も是非近くて、安くて、美味しい韓国のハワイ“済州島”へ出掛けられるのは如何でしょうか。私も次回はゆっくり民宿に泊まり釣りでも楽しみたいと思っています。

オリエント急行の思い出

浅見武彦

1999 年 12 月の初めに私達夫婦は１週間のイタリアパックツアーに参加した。定年退職後に嘱託として勤めさせていただいた期間であったが、本場のカンツォーネを堪能することと豪華列車オリエント急行（略称「オリ急」）に乗るチャンスということで休暇をもらって参加した。

11 月 30 日正午に成田を出発、オランダでアリタリア航空の中型機に乗り換えて１日朝６時（現地時刻 30 日 22 時）にミラノ空港に到着した。翌日から専用バスで【ミラノ②→ヴェローナ→ヴェネチア①→ピサ→フィレンツェ①→ローマ②⇔ナポリ・ポンペイ】を周遊した。丸数字は宿泊数、下線箇所がオリ急による移動である。一行約 35 名は当初互いに見ず知らずの人達であるが段々と打ち解けていった。現地ガイドは日本語の達者なイタリア女性である。

３日目の水の都ヴェネチアを観光後、玄関口にあたるサンタルチア駅からオリ急に乗りこんだ。ほかの乗客はいろいろな国からの旅行者で日本人団体も見られた。各席は扉付き個室、反対窓側が通路である。列車の中央付近に食堂車が２輌連結されている。食卓と各個室にはこの列車のシンボルであるピンク色のシェードが付いたスタンドが置いてある。(写真添付)

列車は都市や平野・山間部を走り抜け、途中の停車駅では見物の子供達が手を振って歓迎の挨拶をしてくれた。５時間後の 16 時頃に終点のピサ駅に到着した。約 400km の走行である。ピサはガリレオが物体落下の法則や振子の等時性を発見した場所（斜塔、聖堂）として有名である。

その後、歴史の都・ローマやカンツォーネの故郷・ナポリなどをめぐり、直行便で帰国した。

ここで「オリ急」について説明したい。オリエント急行といえば名探偵ポワロ「オリエント急行殺人事件」や 007「ロシアから愛をこめて」で有名である。この列車は1883年にパリとイスタンブール間に開通して以来多くの政治家、富豪、国際スパイ等を乗せて走ったのであるが、その後航空機に押されて衰退し 1977 年に運行が打ち切られた。しかし 1982 年に観光列車として復活し、またその車両は他の観光路線でも活用されて人気を集めた(2009 年 12 月完全廃止)。私達が乗ったのはイタリア国内の一路線内に過ぎないが豪華列車としての気分は十分味わえた。現在、箱根仙石原のラリック美術館に車両１台が保存され、喫茶室として活用されているという。

旅行のもう一つの楽しみであるカンツォーネは伊語で「歌」という意味だが、通常オペラや古典歌曲は除かれ、日本でいえば演歌、民謡、ポップスに相当する。日本との大きな違いはクラシック歌手の正規な演奏曲目となることである。ミラノでは楽譜とＣＤを購入、ローマではカンツォーネ・レストランで夕食をとった。

また古いナポリのカンツォーネではナポリの魅力と「開放的な愛」を歌ったものが多く、通常マイクなしで熱唱する。「忍ぶ愛」の演歌とは対照的で、語りが主体のシャンソンとも違う。

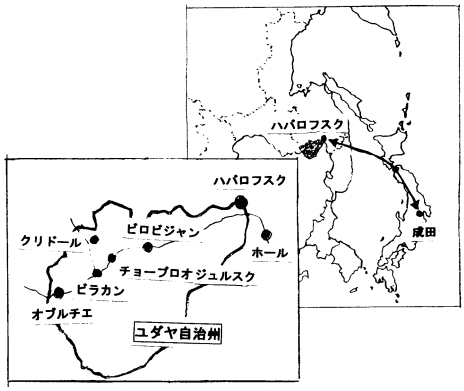
有名な「オー・ソレ・ミオ」（1898 年ナポリ）、「ヴォラーレ」（1958 年サンレモ）等は現在でも世界的に愛唱されているカンツォーネである。

写真:（上）ホームで車掌と（下）オリエント急行食堂車

父の最期の地を訪ねて

春原　猛

昨年の 9 月、厚労省のソ連抑留中死亡者慰霊巡拝団に弟と共に参加し、戦後 66 年目にして父の最期の地を訪れることができました。成田から飛行機で約 3 時間、ロシア極東の玄関口のハバロフスクに降り立ち、ハバロフスク近郊のホール及び極東地域の南に位置するユダヤ自治州内のビロビジャン（州都）、チョープロオジュルスク、ビラカン、クリドール、オブルチエの各地にある全部で 7 か所の埋葬地（墓地）や収容所跡をバスで 5 日間かけて巡り、その距離約 900 ｋｍというハードな旅でした。帰国前日には、ハバロフスク市に日本政府が建立した日本人死亡者慰霊碑の前で、現地政府関係者及び日本国総領事の参列を得て、ハバロフスク地方で亡くなられた方々の合同追悼式もありました。



慰霊巡拝の旅経路

バスの旅は、ハバロフスクからアムール河を渡って、シベリア鉄道とほぼ並行する幹線道路を西に向かいました。ユダヤ自治州はアムール河を隔てて中国黒竜江省と接し、湿原地帯にあって、場所によっては夏 40 度、冬は-45 度にもなるという寒暖の差が激しい所です。バスの車窓から見える景色はどこまで行っても白樺林と広大な湿原ばかりで、たまに質素な作りの家の集落が見え、また、木材や石油などを積んだ50 両ほど連結された長い貨物列車とすれ違いました。今回訪れた埋葬地（墓地）のほとんどは、戦後遺族会が建てた慰霊碑しかなく、それも台座しか残っていないものや、銘鈑が剥ぎ取られてしまっているものなどもあり、私たち遺族にとってはつらい光景でした。中には、大きな車輪の幌付き軍用トラックに乗り換え、樹海の中の川を渡り、道なき道を進んでようやく墓地にたどり着くといった所もありました。

私の父が最期を迎えた収容所は、ユダヤ自治州の西端、シベリア鉄道の駅があるオブルチエ市から 18 ｋｍほど北の小高い山間にありました。今回の巡拝先で唯一埋葬地がまだ確認されておらず、そこで亡くなられた 47 名の方々の追悼式を、収容所跡で行いました。収容所の跡形を示すものは何もなく、白樺林の木々と雑草が秋風に時折揺れる以外は静寂そのもので、その収容所から何とか帰還できた父の戦友からお聞きした当時の過酷な状況を想像できないほど平和で穏やかな佇まいでした。追悼式の最後に、遠く離れた酷寒の地で無念の死を遂げられた方々の望郷の思いを偲んで、皆さんにお願いして『ふるさと』の唄を斉唱しました。「兎追いしかの山、小鮒釣りしかの川……」と唄い始めた途端、色々な思いで感極まり唄声が途切れがちになってしまいました。小一時間ほどの滞在で、名残惜しく別れをつげて次の訪問地に向うためバスに乗りました。再び訪れることができればという淡い希望を抱きつつ……。

収容所にて（左が筆者、右が弟）

昭和 20 年 5 月に、中国大連の満鉄に勤務していた当時 33 歳の父は、母と私(3 歳)と弟（1 歳）を後に残して応召し、中国牡丹江付近でソ連軍の捕虜となり、過酷な強制労働と劣悪な衣食住環境のため病に倒れ、その年の大晦日に収容所で亡くなりました。当時まだ幼かった私には残念なことに父の記憶が全然残っておらず、「親父」という言葉もすっと出てこないような少し遠い存在でしたが、今回の慰霊巡拝の旅で、ぐっと父に近づけたような気がします。92 歳になる母は同行できなかったものの、息子たちの慰霊の旅を我が事のように喜んでくれ、少しばかり親孝行ができた思いです。

昭和 20 年 8 月の終戦を境にして、西はウクライナから東はカムチャッカまで、広大な旧ソ連地域に点在する約 1,200 ヵ所の収容所に約 57 万 5 千名もの日本人が抑留され、約 5 万 5 千名もの人が亡くなられたという事実に、戦争の不条理と悲惨さを痛感すると共に、今回の慰霊巡拝の旅で改めて不戦の思いを強くしました。

思い出　旅行　いきいき

写経三昧

竹中利一

1. 写経との出会い

写経に筆を染めてから 25 年余になる。齢 50 を超えるかこえぬ頃、同僚から般若心経が面白いと勧められて、松原泰道師の「般若心経入門」を手始めに、紀一義、ひろさちや氏などの解説書を読み漁った。空の思想に撥ね返されて、読書百篇を諦め書写百篇に転じたら意は通じるかと、般若心経を書き始めたのがきっかけで写経にハマってしまった。

2. 写経の効用

手本つきの般若心経の写経用紙を買って、筆ペンで書写したのが最初で、短い経文とはいえ２時間ほど要したように思う。懸命に書写するうちに仕事の憂さや人間関係の煩わしさを忘れて、ただひたすら書いていた。日頃の煩累を忘れて、無心に遊べる意外な写経の効用に気づき、以来気分転換を求めては今日まで写経を続けている。

3. 般若心経２７６文字

本来写経とは経文を写すことで、法華経でも無量寿経でも構わないが、写経＝般若心経を思い浮かべるのは、心経が最も短い経文で、天台、真言、曹洞臨済等の多くの宗派で唱えられているためである。般若心経は首題 10 文字「摩訶般若波羅蜜多心経」と本文 262 文字ならびに奥題 4 文字「般若心経」で計 276 文字が書写対象になる。

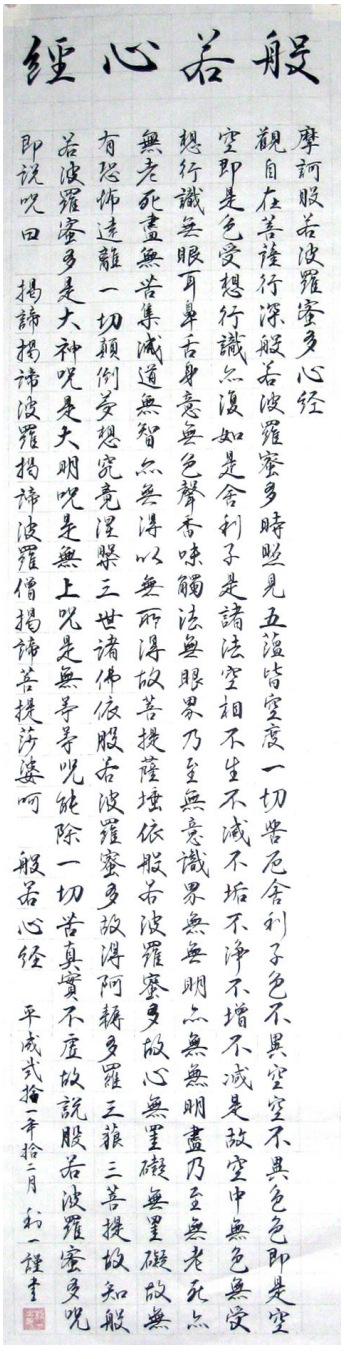
▼紺紙金泥般若心経

これに願文を添え、住所氏名を記して完了させる。

4. 写経の手順

筆ペンで始めた写経だが、ある時写経の手ほどき本に、簡略な作法でも 1）机上を整理　2）合掌　3）一巻を読誦　4）磨墨　5）書写　6）校正　7）合掌が普通で、厳格な作法では息がかからぬように覆面瓠をつけ、一字書いては礼拝し、一行書いては礼拝供養しながら書き進めるとあって、筆ペンではいかにも恐れ多く、今は 1）机上を整理し　2）合掌し　3）静かに墨を磨って精神統一してから毛筆で書写することにしている。

願文は亡き父母の菩提を願うことが多い。



半切紙行書般若心経 ▶

5. 筆墨紙＆経文

5-1 紺紙金泥経文

平清盛が納めた平家納経「紺紙金泥五輪塔心経」を御覧になった方も多いだろう。華麗な装飾経である。毎回黒い墨で楮紙に短鋒で書写するのに飽きて、たまには金や銀泥で紺紙に心経を書こうと思い立った。

筆墨店で紺紙を求めて金銀の墨はないかと尋ねたところ、日本画用の水彩絵の具「吉祥」を勧められた。これを水に溶いて書くのだが、なかなか上手くいかない。溶き方が薄いと書きやすいが、仕上がりがぼやけて映えない。濃すぎると、絵具が溜りとなって字形が崩れる。溶き加減が難しいのと当を得た溶き方でも夏場は書写中にどんどん乾くので、失敗してしまう。試行錯誤の末、再び同じ筆墨店に相談したところ金、銀泥による書写は面相筆が良いと教えられた。画家が使う極めて細い筆でなるほど溶き加減が多少ラフでも絵具がすっと降りてくれる。

ようやく面相筆、吉祥コンビに慣れた頃、銀座「鳩居堂」で金、銀の墨を見つけて購入、墨は吉祥よりはるかに使いやすい。

5-2 半切紙

気分転換に、会津八一や中林梧竹の作品に習って般若心経を半切紙に大きな字で書いてみる。

彼らのように大きな紙に全文を過不足なく収めることは出来ないので、あらかじめ罫線を引いてから書写する。一般には写経は楷書で書かれるが、時に行書で書いてみるのも楽しい。

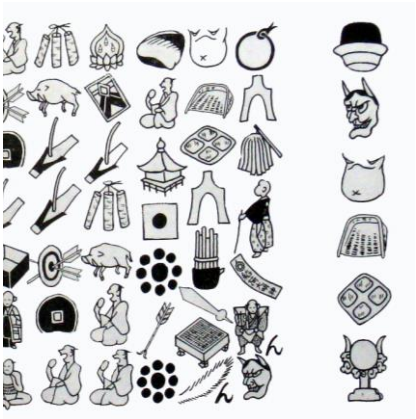
5-3 仏説阿弥陀経その他

いくら物好きでも般若心経ばかり書写していては飽きる。我が家は浄土真宗なので、浄土三部経に挑戦する。最も短い仏説阿弥陀経でも、般若心経 276 文字に対し、約 2,000 字である。数ヶ月かけて一巻完了。仏説無量寿経、仏説観無量寿経は膨大な字数なので、エッセンスの重誓偈第九真身観文を書写している。親鸞の教信偈など書写の対象は限りない。

5-4 絵文字般若心経

最後に面白い般若心経を紹介しよう。昔、文字の読めない人のために絵で書かれた心経である。

冒頭部を読んでみる。逆さまの釜でマカ（摩訶）次は般若（ハンニャ）、腹（ハラ）、箕（ミ）、田（タ）、神鏡（シンキョウ）と続いて、首題部分「摩訶般若波羅蜜多心経」と読める。



余談はさておき、いつか無量寿経の全文書写を達成したいものだ。

花を描く（コンピュータ・グラフィックス）

二木盈行

わが家の庭先に咲く花や散歩の途中で見かける美しい花、それらを写真やスケッチで記録してCGで描くことが私の趣味の一つです。今までに描いた花のCG作品を紹介します。

●ゲッカビジン（月下美人）

毎年２～３回、夏から秋にかけての夜間、わが家の庭に甘い香りを漂わせて大きな真白い「月下美人」が咲きます。夜８時頃から咲き始め、翌朝には、しおれてしまう一晩のはかない命です。花言葉も「はかない夢」「はかない恋」。

CGを描くのに苦心したことは、この純白の花弁を表現することでした。思い通りに描けないもどかしさがありました。制作時間は一日３～４時間作業をして約一週間で完成。使用アプリケーションソフトはCorel Painter11とAdobe Photoshop CS5。

以下のCGはすべてこのアプリケーションソフトを使用しています。

●オオムラサキツツジ

もっとも普通に都会に植えられている種類のツツジで、公害に強く強健だそうです。わが家の庭にも５月の連休頃、白とピンクの混じりあった花が枝一杯に咲きます。花言葉は「努力」「美しい人」。

CGでは、花に差し込む太陽の光と影のコントラストの美しさを表現しました。制作時間は約15時間。

●バラ

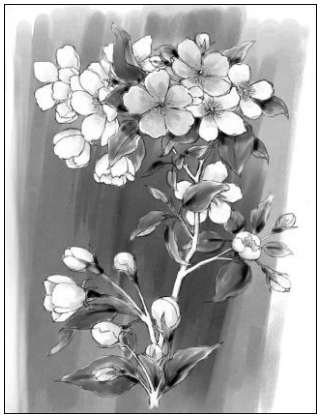
季節になると大船フラワーセンターへバラの写真を撮りに行きます。バラ園には多くの品種が咲き揃い、良い香りが漂っています。バラの花の色は非常に多く、一本一本が自己主張するかのように色彩を競い合っている感があります。バラの花言葉は色に

よっても異なるそうですが、赤いバラは「情熱」「愛情」「熱烈な恋」とか。

CG で描くにはバラは難しい花です。何枚も重なった花弁の濃淡の表現に手間がかかること、色彩も多様なため、微妙な違いで表情がガラッと変わってしまうからです。この作品の制作時間はかなり長期間かかっています。今もまだ自分で満足するものが描けず制作途中です。

●ノウゼンカズラ

●ハナカイドウ（花海棠）



夏の庭樹の花としてあちこちで見かけるノウゼンカズラ。オレンジ色の鮮やかな花です。太陽の光を透かして見る花弁の色は、まるで夕陽の色に似ています。この色をなんとか、CG で表現したいと思い、描いた私の初期の作品です。制作時間は約 20 時間。花言葉は「栄光」「名誉」。

ハナカイドウは近所の家で撮影した写真を基に CG 化しました。これも初期の作品ですので、今見るとテクニックとしては稚拙なところがあります。制作時間約 15 時間。花言葉は「温和」「友情」。

綺麗な花を見た時、この美しさを記憶に留めたい、再現したいと思うことがあります。写真もその手段の一つですが、自分の手で加工することにより、さらに個性的な表現のできる手段が CG です。これが私の趣味として始めた動機です。絵具や筆を使う絵画とは違って、画面とペンタブレットにより創作意欲をわかせてくれる楽しいものです。今では簡単に使えるアプリケーションソフトも沢山あるので、興味のある方は是非、始めることをお薦めします。

国際語エスペラントと共に　柴山純一

この稿を仕上げて半月後には、私ども夫婦は、ベトナムのハノイで開催される「世界エスペラント大会」に 1 週間参加し、さらにカンボジアまで旅行します。去年韓国で会った人たち、一昨年モンゴルで会った人たち、あるいは先週横浜で会ったネパールの人、先月横浜で会ったスイスの人とも再会するでしょう。ただ、三十年来のドイツの友人、ポーランドの友人、スロバキアの友人は、遠く離れたベトナムには来られないと言ってきていて、会うことはできないでしょう。みんな、共通の言葉 Esperanto で話す仲間です。

思えば、この言葉を中学生のころに知ってから五十年です。入社して最初の配属地、伊丹でも、寮の近くの夙川、勤め先の近くの塚口の公民館などで活動をしていました。そこで知り合った妻と、新婚旅行でドイツ人夫婦の家に泊めてもらってから三十年以上になります。

わが家に泊めたエスペランチストも、韓国・ドイツ・フランス・スペイン・・・などいろいろ。最初の客は、電話で、”Haloo, mi parolas el Afriko.”（ハローオ、ミ・パローラス・エル・アフリーコ＝こんにちは、アフリカから電話しています）と言ってきて私たちをあわてさせました。聞いてみると、フランス人の電話技術者で、アフリカで技術援助をしているそうです。外地勤務のため標準よりかなり長いバカンスをもらえるのでアジア周遊をしているとか。

こちらは働いている身、休みといっても一週間が限度でした。家に泊めた韓国の人、ハンガリーの人の家にはその休暇の中で遊びに行ってきました。

写真 1

写真 1 は、退職一年前の会社のニュージーランド旅行の際に、オークランドのエスペランチストの家に招かれたときのものです。

写真 2 は昨年のデンマークの世界エスペラント大会でのスナップ写真です。
そして、おととし退職して、今年は二週間の旅行ができます。

このエスペラントは、文法も簡単で単語も覚えやすくできているが、なかなか普及しない。しかし止めないでやっている理由というと、人と会い、エスペラントの読書をし、自分でもエスペラントで書き、といった身近な楽しみが片方にあります。また片方には、社会正義として、特定の民族の言語がこの世を謳歌し、この語を知らなければ現代人ではないといった風潮に対する問題意識があります。

私が理事を務めている一般財団法人日本エスペラント協会（旧称：日本エスペラント学会）ではいろいろな企画を実行していますが、その一つに日本エスペラント大会があります。来年はこの大会が第百回という記念すべき年になるため、単に人を集めるだけでなく、記念出版も行う予定です。その題目が「日本文学作品集」（仮題）で、エスペラント訳された日本文学を集めるものです。私は、学生時代に訳した萩原朔太郎の訳詩をこれに応募する他、新訳にも挑んでみたいと思っています。

こう書いていくと、現役社員当時の技術者の面影はないようですが、例えば上記日本エスペラント協会のウェブサイトをボランティアとして制作した際には、仕事で覚えた html の技術が役立ちました。
ところで、エスペラントには、英語なら ch、sh のように 2 文字で独特の発音のところを 1 文字で表すために、ダイアクリティカルマーク付の文字 ĉ,ŝ などがあります。現在はこれらの文字はユニコードで表すことができますが、それが普及する以前、JIS の第一水準、第二水準に次ぐ、通称第三水準コード（JIS X 0213）にこれらの文字セットを入れさせるためのロビー活動をやったこともあります。
また、出向先で、人間が作ったデータがフォーマットに合っているかどうかの検査ソフトを作ったときの経験は『エスペラント日本語辞典』の編集委員の一員として、辞書原稿の校正の際にも役立ちました。

これからもエスペラントのいろいろな面で活動していきたいと思っています。
（参考：日本エスペラント協会のサイト：http://www.jei.or.jp/）

エスペラントとは何か （上記サイトより引用）

エスペラントは、なによりもまず「ことば」である。 100 年をこえる実用の歴史がこのことを証明している。話し手の多少を問わず、どの民族語も調和のとれた美しい体系であるように、エスペラントもことばとして調和のとれた体系である。また、日本語や英語を大切に思う人がたくさんいるのと同じように、エスペラントを「自分のことば」として大切に思う人もたくさんいる。 しかし、民族語と同じ機能を持った「ことば」であると同時に、人間が知性の光をあてて磨き上げた国際共通（補助）語として、ほかにない特徴がエスペラントにはある。

--中略--

言語と文化の多様性は人類の宝である。だが、現状はその宝を、戦争や経済的な圧迫と屈従がむしばんでいる。ほかの民族を自分たちの支配下に置くのではなく、たがいに尊敬しあうことを目指すのが 21 世紀をむかえる私たちの進路だとすれば、地球的な規模でものごとを見る公平な視点と、対等なコミュニケーションを可能にする中立言語が不可欠である。エスペラントが民族語を廃止し言語を統一するもの、という根拠のない誤解がまだ根強いが、その反対に、エスペラントは言語と文化の多様性を断固として守る「橋わたしのことば」である。

（藤巻謙一）

私流のセカンドライフ

木村　弘

先日 6 月 9 日横浜市瀬谷区の歴史的古民家公園「長屋門公園」の 20 周年祝典が有り、沢山のボランティアの皆さんと共に私達「はま農楽（はまの～ら)」グループも感謝状を貰いました。

園内の清掃を主体に平成 16 年から始まり今は「刈り払機の草刈と梅の剪定」阿久和キッズの会芋掘りの「さつま芋の栽培」などが活動の主体です。

活動は原則毎月 1 回 8 年間合計 80 回になり延べ参加者は 250 人を数えました。退職者中心のメンバーで、高齢化で参加者が減少ぎみですが周りのグループと調整しながら次の担い手が決まるまで＜継続こそ命＞の思いで頑張っています。これからも一人でも多くの会員と共に季節の木漏れ日の中爽やかな風を味わいながらの心地よい汗を楽しみたいと思っています。

この「はま農楽（はまの～ら)」とは横浜市民農業講座の修了者で立ち上げた「緑の応援隊」です。単にボランティアだけでなく、人手で困っている農家や公園、花壇や、障害者施設など有償・無償にかかわらず先方の要求に対し時間と活躍の意欲が合致したとき各人が先方と話し合って納得の上お手伝いをするシステムで農作業だけでなく加工品作りや直売所の販売などにも携わります。22 年まで 4 年間には市立中学の技術家庭科授業における“野菜栽培講座”の臨時講師まで任されたこともありましたが、校長の交代で授業の方針が変わり終了した事例などもあります。(ホームページを覗いてください)

私たちは農業労働者ではありません。農を楽しもうで「楽」を前面打ち出していますが仕事の結果については中途半端な奉仕の気持ちでなく最後まで責任をもつ、特に「援農」は経営の結果に直結しますので園主の信頼を得る事が何より大切の心構えです。少額ながらほとんどが有償で任せて頂きお陰さまで 5 年以上 10 年経っても同じ農家さんに信頼を頂いている仲間が多く都市農業の強力な助っ人として県や横浜市農協などからも大いに評価を頂いて期待されています。

私の援農デビューは平成 15 年で、本格的農業の初体験だった。野菜とハウス・トマト、はま梨、の世話を約 800 日続けました。当時は夕方の作業が終わるとヤレヤレでしたが「今日も有難う、助かったよ」の一声とお土産にいただいた B 級品の野菜を肴に、「今日も元気でビールが旨い、よし明日も頑張ろう」という気分が一日の達成感と適度な疲労と共に最高の晩酌になったものです。その時の発見は「保土ヶ谷ブランド野菜」が特別美味いのに感動したことです。皆さんも機会があれば味わってみてください。

多くの会員は主に講座生時代の現場実習で指導いただいた農家さんに年間のお付き合いがあるのが目立ちますが、週 2～3 日の日程の間には稲作や果樹栽培のような季節的に繁忙期が来るスポットの援農も多く、どこへ行っても多彩な仲間に会えて菜園の情報交換や、新しい野菜の栽培や種や苗の交換など様々な楽しい出会いが日常的にあります。お陰さまで 10 年間は家にいる事が少ないので時間の使い方に苦労なく家族はお土産でいつもニコニコでした。

現場に出れば季節の花や小鳥の鳴き声で都会の喧騒は何処へやら、ここが横浜なのとかと思うほど長閑で、たくさんの新しい経験と友人たちに恵まれ小旅行や納涼会や忘年会などの番外行事も楽しい思い出です。私にとっては体を動かす事で心身の健康に恵まれ　奉仕も喜ばれ　ほんとうに満足の“セカンドライフ 10 年”でした。

写真：▼後列、左端が筆者

■「はま農楽（はまの～ら)」のホームページは
http://www18.ocn.ne.jp/~hamanora/page5.html

私の仕事はホーム・マネージャー

安藤純一

4年前に桜船会のメンバーになりました。

定年後は、「何をなさっていますか？」と、よく聞かれます。会社には、法務マネージャーという仕事がありますが、私の仕事は「ホーム・マネージャーかな」と思っています。現役時代以上に、家の事は何とかマネージメントしているつもりです。実務も、財務（家計簿の集計・資産管理）、買い物と料理の一部、母への出張介護等を担当しています。また、社外出向時にお世話になった知人の所で、アルバイト（EMS環境管理関連業務等）もしています。

一方、趣味の方は、従来からのエレクトーン練習（週1回）に加え、定年後のお誘いで、湘南フィルハーモニー合唱団（160人の混声合唱団。次回演奏会はメンデルスゾーンのオラトリオ「聖パウロ」を、すみだトリフォニーホールで、10月20日オーケストラ付で演奏）の練習（週1回、4時間）に参加しています。6月24日（日）には、神奈川県合唱祭にも参加し、「聖パウロ」の中から2曲（3番と45番）を歌いました。

従来からの趣味として、料理もあります。学生時代から自炊しており、入社時には旧“福岡製作所”独身寮に冷蔵庫を持ち込んだりしました。料理は今も、家事・介護にも役立っています。

その他、意外に時間が掛かるものとして、散歩があり、買い物と一緒にしています。 私の場合、ノルマは現役時代より少なくし、1日7500歩としています。いずれにしても、定年後はゆっくりできると思っていましたが、結構忙しいものだなと思っています。若干睡眠不足です。

それ以外に、定年後意外に思ったのが、夫婦の会話です。それまでにも、実はお互い良い方に勘違いして上手くいっていた、なんてことが時々ありましたが、定年後じっくり話を聞いてみると、随分発想が違うものだと、感心しています。まあ、そこが面白いところでもあります。もともと、仲が良いので、持ちこたえていますが・・・(笑！)。

さて、定年前の思い出として思い浮かぶのは、MDライフへの出向時のことです。研究所対応の大船営業所を、所長以下3名を中心に運営をしていました。情報総研の総務部のご指導の下、給食の選択食の導入、O-157食中毒対策、好日荘のキャンペーン展開などを実施しました。また、東日本の三菱電機7場所の給食メニューの統一をテーマに、7名の栄養士さんと打ち合わせてプロジェクトを進めたのも楽しい思い出です。現場が生き生きと仕事しているのを見るのが好きでした。昔OCR(光学式文字読み取り装置)の設計をやっていたころも、現場の組み立て作業者から、「安藤さんの図面の仕事は好きだよ」と言ってもらえたのも、うれしい思い出の一つです。岡電で、生産技術をやったことが、設計図面に生かされたと思っています。

最近注意していることがあります。一つは、健康管理です。毎朝起きると寝床で、ストレッチ体操を始め、食べ物も果物・野菜を先に食べたり、バランスの良い食事をしています（でも、まだ小太りかな？）。ただ、今年になって、血液検査の値も初めて基準値の範囲外になったものが、増えてきています。そのため私に合った、「掛かりつけ医」を選び、病気に合った専門医を選んでいます。また、私個人の症状・検査の値等から自分の健康寿命を勝手に想定し、それに合わせて、人生計画を再構築中です。

注意している二つ目は、何と言っても夫婦の会話です。これは大事ですね～。また、家族の心身の健康管理も大事なところです。母は、少し痴呆が入っていますが、苛められた経験がないので、毎日周りに感謝して生活しています。私の方も、母の扁桃体（脳）に無意識に怒りが蓄積しないよう「そんなことしてはダメよ！」等言わぬよう努力しています。

最後に、皆様のおかげで私はここまで育てて頂きました。これからは、私も楽しみ、周りの人も楽しく過ごせるよう頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

▼父の日に自宅にて

定年後 10 年経過

石塚幹夫

2002 年 3 月に定年退職して 10 年経ちました。退職後の計画として特に 2 案あり、
①地域の公民館・国府津学習館の囲碁同好会に入会して囲碁を打つこと。
②趣味のゴルフでシングルプレーヤーに成ることでした。ただし、親父の遺言に「男は生涯現役・死ぬまで働け・・・」でした。

さて、この両立を図るためにはどうしようかでした。地方の碁会所はインフレで高段位とは名ばかりとの予備知識を得て二段で入会したのですが四段になるまでに 8 年もかかってしまいました。皆さんが強いのです。

ゴルフのハンディキャップは退職前が 11 でした。2 つ減らすのは大きな壁がありましたが、幸いにも失業保険給付期間の 6 ヵ月間に週 2 回・早朝から練習場通いが功を奏してホームコースの月例会で 2 回も優勝して運よく HDCP9 を得ることが出来ました。これが住環研 OB ゴルフ会開催の原動力になりました。

働くことを忘れたわけではなく、60 歳になって履歴書を書いて家から自転車通勤できる地域の会社に挑戦しました。

最初は地質調査会社です。勿論、日給幾らのアルバイトです。三角錐のやぐらを組んで鉄パイプを地中深くに打ち込みます。この鉄パイプが重いのです。横にして持つのは軽いのですが垂直に持上げるのが重労働なのです。すぐギブアップし、3 日で辞めてしまいました。サラリーマン上がりの体力の無さを痛感しました。
（やぐらは鉄パイプを垂直に保持するもの）

2 回目は青果市場で果物や野菜の仕分けを 3 年。市場の仕事は早朝から 10 時頃まで。全国各地から集まってきて地図を見るのが好きな小生には農地を思い浮かべて仕分けしました。地元・三浦三崎の青首大根やキャベツもありました。

3 回目は大手スーパーの加工食品の品出しに 3 年。食品の製造年月日や賞味期限がいかに大切かよくわかりました。家電製品の製造年月表示は寿命末期や部品保有期間の目安と思っていましたが食品と家電製品を対比しながらの日々でした。
この間に桜船会の役員を 1 年間務めましたが、仕事との両立が難しくて断念させていただきました。

4 回目は高圧受電設備の保守管理の仕事を現在進行中です。県内の事業所の受電設備で、私の学校の同窓生が主任技術者でその助手をしています。
6.6KV の高圧を受電して 200V,100V に変換する受電設備（キュービクル）は三菱電機製品が多くて責任を感じる日々です。

仕事や趣味の時間の合間には、相模湾や富士山、箱根連山が一望できる国府津山で実家のみかん畑の手入れを家内と二人でしています。（みかんの花咲く丘）耕作放棄地が多くなった昨今ですが、収支は無視で一年中仕事があります。草取り、剪定、肥料配布、摘実などで、消毒は無農薬に徹して、除草剤を含めて一切使用していません。5 月から白い花が咲き 12 月には橙色に色付きます。

酸味が強いみかんですが、糖度を上げて美味しい蜜柑作りを目指しています。

（写真：ゴルフ仲間と筆者左から 2 人目）

「男は働け」とは収入が伴うものと思っていましたが「働けとは奉仕することだ」と心して、囲碁やゴルフの幹事役、山道の道路整備などに協力しています。加齢と共に人並みに薬や医者通いも必要になってきて、無病息災は遠い昔になりました。

怪我をしないで、健康に過ごせることに感謝しています。

関東ふれあいの道 - 神奈川県 17 コース踏破

富山勝巳

静岡の高校時代からの友人が横須賀に住んでおり、心身の健康維持のため、定年後の山歩きを二人で再開しました。主に日帰りで月に 2～3 度天気の良い日を狙って丹沢・大山、奥多摩、中央線の大月周辺までの山々、冬場は鎌倉や三浦アルプスなど安全第一をモットーに歩いています。昨年の冬に、「関東ふれあいの道」踏破記念制度があることを知り、まずは神奈川県コースに挑戦することにしました。

「関東ふれあいの道(首都圏自然歩道)」は、関東地方の一都六県（東京、埼玉、群馬、栃木、茨木、千葉、神奈川)を一周する長距離自然歩道のひとつで、総延長は 1,665ｋｍあります。

神奈川県コースは、久里浜港から三浦半島を相模湾沿いに北上して鎌倉から湘南海岸を大磯に、それから秦野に抜けて大山・下社を通り丹沢山塊東辺の道を津久井湖に出て、高尾山南の梅の木平で東京都に引き継ぐ、バス等連絡区間を含め 197.2ｋｍで、実際に歩く区間は 3.4ｋｍから 16.2ｋｍの 17 コース、150.9ｋｍとなっています。案内板もしっかりしており、日帰りが可能ですので天気の良い日はお弁当を持って、皆さんも健康維持のため体調を整えて歩いてみませんか。

美しい自然を楽しむばかりでなく、歴史や文化遺産、さらに地元の人々とふれあうこともできます。

コースマップ(無料)を入手して、自分の好きなコースだけを歩くのも良いし、全コースを踏破して認定証とバッジを貰うのも励みになります。各コースに定められた撮影ポイントで自分を入れた写真と各コースの感想を県の担当課に送ると貰えます。

東丹沢を通る 11，12，16，17 番のコースは、標高 800m近い登山道を含みますので、できれば単独行は避けて知人と一緒に安全第一で歩きましょう。

天気が良くて、体力に余裕があれば 2 コースを続けて歩くこともできますが、無理をしないで楽しみながら歩きましょう。楽しく歩くため、常日頃から食生活と適度な運動に気をつけて、毎日 5 千歩から 1 万歩は歩くようにしています。

出来るところまでチャレンジしてみませんか。

私は友人と、2011 年 1 月から挑戦を始めて神奈川県の 17 コースは 4 カ月で踏破して記念バッジを頂きました。さらに東京都の高尾山から棒ノ嶺山までの 7 コース、埼玉県の伊豆ヶ岳など 13 コースをまもなく踏破完了の予定です。群馬県と栃木県、茨木県、千葉県のコースはどう挑戦するか思案中です。

コース 17：愛川町三増合戦場の碑にて

	コ ー ス 名	距離(km)	時間(Hr)	難易度
1	三浦・岩礁のみち	10.3	3.0	高
2	油壺・入江のみち	3.4	1.0	低
3	荒崎・潮騒のみち	7.7	2.25	中
4	佐島・大楠山のみち	10.7	3.5	中
5	稲村ケ崎・磯づたいのみち	6.2	1.75	低
6	湘南海岸・砂浜のみち	10.2	2.5	低
7	大磯・高麗山のみち	7.6	2.5	中
8	鷹鳥山・里のみち	8.9	2.75	中
9	弘法大師と桜のみち	9.4	2.75	中
10	大田道灌・日向薬師のみち	8.5	2.5	低
11	順礼峠のみち	8.8	3.25	中
12	丹沢山塊東辺のみち	11.3	3.75	高
13	山里から津久井湖のみち	10.3	3.0	中
14	峰の薬師へのみち	7.1	2.5	中
15	弘法大師と丹沢へのみち	8.6	2.75	低
16	大山参り蓑毛のみち	8.7	3.5	高
17	北条武田合戦場のみち	16.2	5.5	高

■問合せ先：神奈川県自然環境保全センター
自然保護公園部自然公園課　電話 0467-248-0323

■神奈川県ホームページ・関東ふれあいのみち
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f350/

わが戦争の記憶

川村利正

私には戦争の記憶はほとんどない。太平洋戦争が始まって、ちょうど一カ月目に生まれた私なので無理からぬことと思う。

その中で、強烈な印象が拭えない出来事があった。昭和 20 年終戦直前のことである。当時、我が家は軍港のあった横須賀に住んでいたが、あちこちで戦火が広まり、特にここ横須賀は危険地域であるとの親の判断で、親戚のある中央線の浅川（今の高尾）に疎開したのである。満 3 歳、人生初の転居であった。ところが、戦火は激しくなる一方で、八王子から浅川にかけて、焼夷弾による空爆が連日続く。とうとう地域の人達が声掛け合って近くの防空壕に避難するはめとなった。夜なのに空襲で空は真っ赤に染まり、恐怖に怯えながら母親に手を引かれ、逃げまどう 3 歳の自分を思い出す。防空壕にいたる途中に大きな野菜畑があり、空から雷鳴のような空襲の轟音がすると、皆が藁をもすがる気持ちなのだろうか、「とうもろこし畑」の中に逃げ込む、気休めと解っていながら、皆が皆そういう行動をとったのだ。やっとの思いで逃げ込んだ防空壕の中では、皆がそれぞれ持ち込んだ食料を少しずつ分けて食べ、飢えを凌いだ。「するめ」のあの味が忘れられないし、他に何を食べたか憶えていないほどだ。

数日後、遊び友達だった、隣の子が焼夷弾を受けて死んだ。そしてその数日後、戦争は終わった。

結局、親父が残った横須賀の町は何事も無かった。戦争が終わって再び、元の生活に戻ったのだが暮らしは一変した。横須賀の町は極端に変わったのだ。アメリカ人がそこかしこで闊歩していた。

ある日、母親が泣きながら家に帰って着た。母は大正 3 年生まれだから、当時 31 歳くらいだったと思う。アメリカの兵隊に追っかけられたのだと父親に話をしているのを耳にした事を憶えている。

母は、それから暫くの間は家に閉じ困っていたようである。

父親は、当時かなりのヘビースモーカーだったようだ。戦争直後は、お金があっても物がない時代だったから、嗜好品の「タバコ」はなかなか手に入らなかったようだ。姉が言い出したのか、自分が言い出したのかは定かでないが、困っている父親の姿を見て、姉弟（姉 6 歳位、私弟 4 歳位）2 人でアメリカ人が捨てる「たばこの吸い殻」を拾いまくった。横須賀線の衣笠駅の近くに自分の家があったので、そこから横須賀駅まで片道 5 キロほどの道のりを何度往復しただろうか。父はその吸い殻から中身を取り出し、別の紙に巻き直しては、いつもうまそうに煙を燻らしていたのが忘れられない。子供の気持としては、素晴らしく良いことをしたと思っていたのである。

他人にはあまり話したくないこともあった。食べるものがない時代だから、特に米がない時代だから、茶碗の中身は、米 1 割にその他 9 割というのがいつものパターンであった。その他 9 割は「トウモロコシのすいとん」であったり、「さつまいも」や「じゃがいも」だった。

ある日、家で可愛がっていた愛犬の雑種「アカ」が突然いなくなった。子供心に心配した私は親に聞いてみた。親たちは笑って何も答えない。後で聞いた話だが、夜に食べたうまい肉が「アカ」の肉だったそうだ。何とも悲しい出来事であった。

あれから既に 65 年以上を経過し、今年初めに古希 70 歳になった。その今は何と幸せな時代なのだろう。贅沢をせず、普通に暮らせば、食べることにはまず困らず、行きたいところに行ける。そして好きな趣味を自由に楽しめる良き時代となった。何とも有難いことである。昨日、東京スカイツリーを見た帰りに、夫婦で浅草の夜の町を飲み歩いた。丁度一週間前には、修善寺の「虹の郷」を訪ねた。

を見ては、はしゃいだ。その日は修善寺の近くにある湯ヶ島温泉に泊まり、翌日は夫婦ゴルフを楽しんだ。家族に、友人に、社会に感謝の気持を忘れずに、健康で楽しい人生を続けて行きたいものである。

退職して早３年

若林正雄

桜船会創立 20 周年おめでとうございます。
私は、三菱電機に、昭和 38 年（1963）４月入社、平成 21 年（2009）３月に、三菱電機照明を退職しました。三菱マンとして、46 年間勤務させて頂きましたが、照明一筋で、ランプの開発や、市場開発営業を担当し、やりがいのある大変貴重な仕事を楽しくやらせて頂いたことと、数多くの素晴らしい人達にめぐりあえたことに深く感謝しています。

その後、年金生活での第２の人生を踏み出し、早３年強が経ちました。日頃、毎日を楽しく健康で過ごして行かなければなりません。私なりの健康法の一つは、今までより増して、自分に合った好きな、さまざまなスポーツをやることで、足腰の衰えを防ぎ、健康を維持させて行くことです。日頃ウオーキングやストレッチ等をベースに足腰を鍛えて、野球では、以前に公認審判員とスポーツ少年団の育成指導者のライセンスを取得し、毎年シーズンを通し少年野球の指導や審判、練習中のバッティング投手等で体を動かし少年達と一緒に汗を流しています。(指導歴は 32 年になります)。

また、私には、二人の息子がいますが、孫も、少年野球をやり、息子も、その指導者になっています。週末にある試合には、私も妻も孫の追っかけ応援を楽しんでいます。健康投資として、ゴルフも続けていて旧交に加え新たな仲間も増え、楽しんでいます。ボーリングも昨年来復活し、週に２度程教室に通い、いずれ地元大会での優勝を目指しています。別な、ジャンヌではカラオケで、時折、仲間と近くの行きつけのスナックに行き、私は好きな「五木ひろし」を歌っています。ゴルフやカラオケには、多少小遣いがかかりますが、頂く年金の範囲内でバランスよく対応しています。

そして、ついに退職後の夢だったこと。車（パジェロ）で、妻と二人で行く全く自由で気ままな全国一周の旅を実現しました。2009 年４月には、山陰、山陽、九州一周、同７月には東北６県一周（震災の前々の年)、翌 2010 年７月には、車ごと大洗港から苫小牧港までフェリーで渡り、ベストシーズンでの北海道一周旅行を楽しみました。今年６月は、渥美半島より伊勢志摩へ向かったのですが、台風でフェリーが渡れず、やむなく引き返しました。来春この旅行に再挑戦をする予定です。このように健康で、体の動くうちは、好きなスポーツと、好きな旅行をして、時折歌も歌う。今後もこのライフスタイルを一日でも長く続けて行きたいと思っております。

▲2009 年４月 23 日　九州、阿蘇九重国立公園、夢大吊橋

▲2010 年７月 14 日　北海道、阿寒国立公園、摩周湖

▲2012 年８月５日　試合風景　筆者は主審で、投手は孫
寒川町青少年広場にて

金魚を飼って最近おもっていること

岡田光生

以前から金魚を飼っていて、庭に池を作るのが夢でした。ところが、昨年 2 回の引越しがあって、使わなくなった 20 年以上前のビデオカメラや、着なくなった衣類など不要品が多くあり、古いタンスの処分などをしました。また、大きな植木は、庭が狭くなったので手放しました。このため、庭に池を作る夢は、何年か後に不要品となったとき、コンクリートの瓦礫になってしまうと思い、断念しました。

そこで、軒先の地面を 30～40 ㎝ほど堀下げ、使わなくなった二つのポリの浴槽を埋め置きました。我家の廃品と解体業者から別けて貰った廃品です。一つは金魚の池に、もう一つは水道の水を汲み置きして、金魚の水換え用にしています。

金魚を飼うのは 2 回目で、平成 18 年の秋に買った 4 匹の金魚（わきん）が、翌年の初夏に産卵して、孵化があり、稚魚が育って年を越しました。その後も、毎年、産卵・孵化があり、現在、親の金魚と 5 年生から昨年誕生の 1 年生まで約 50 匹と、今年に生まれた稚魚約 50 匹、合計 100 匹がいます。

昨年までに育った金魚 50 匹を、ポリの浴槽に入れています。今年に生まれた稚魚 50 匹は、大きく育っている稚魚 10 匹と小さな稚魚 40 匹に分けて、スーパーでもらってきた発泡スチロールの箱を水槽にして、2 箇所に入れています。ポリ浴槽の池ができる前は、発泡スチロールの箱を、金魚の年齢や大きさに分けて、軒下に何箱も並べていました。

金魚の世話は、エサ遣りと水の管理が主な仕事です。冬の間はあまりエサを食べませんが、春から夏は食欲旺盛で元気です。常に汲み置きの水を用意しておき、水の汚れを見ながら水換えを月に数回しています。雨の日が続くと、水の汚れが進んで何匹もの金魚を死なせてしまったことがありました。金魚の健康には、いつも水を清潔にしておくことが大切のようです。

産卵と受精のときが、もう一つの大きな仕事です。春（4 月下旬）から夏（7 月中旬）にかけて、産卵の始まる朝の 6 時から 7 時頃には、お腹が膨らんできたメスを、オスが勢いよく追い駆けます。

このとき、ホテイ草を入れてあげるとホテイ草の根に卵を産み付けます。2～3 時間したら産卵と受精が完了するので、金魚のいない別の水槽にホテイ草を取上げて移します。ホテイ草を取上げないと金魚が卵を食べてしまいます。その後 1 週間位で、体長 2～3 ㎜の稚魚が孵化します。産卵・受精から孵化までの世話をして、稚魚の成育を見守ることは、大きな楽しみです。

川や海の「さかな」は、産卵・孵化をして稚魚から親へと自然環境のまま育ちますが、金魚は、その時々に適した世話が必要です。金魚の水槽にオスとメスがいて、水の管理を良くして、産卵・受精から孵化までに適した世話をすると稚魚に育ちます。年を越して誕生日を迎え、さらに、翌年 2 歳になる頃には、やがて親となって産卵・受精があります。その後、稚魚が孵化して成長します。これを繰り返して殖えて行きます。

金魚は、条件が良いと、1 回の産卵で数百匹の稚魚が孵化します。産卵は、春から夏にかけて 2 週間に 1 度位ありますので、相当数の稚魚が生まれます。

しかし、我家では飼い主の世話があまり上手くないようで、孵化した稚魚が年を越して春までに育ったのは、ごく僅か数％です。金魚は人間が観賞用に改良したもので、自然の「さかな」に較べると、かなり弱い生き物のようです。

人間は、1 人を産み 1 人を育て、育った 1 人が次世代の親になります。何人も産み育てる方もおられます。金魚と人間では、産む数と育つ数に、大きな違いがあります。しかしながら、水槽の中の 100 匹の金魚を見ていると、オスとメス、赤や白など体色の違い、育ちの早いもの、病気やケガをするもの、群れを成すもの、いつも独りのもの、それぞれ固有の性格を持っていて、人間と良く似ているなと思います。人間も金魚も、親からもらった性質や育った環境によって、自分の性格となり、一生懸命生きています。金魚の親や子供を見ながら、自分や自分の家族と重ね合わせています。

今後も、金魚を殖やしながら見守って行きます。

第 20 回桜船会総会（報告）

事務局長・福本行宏

平成 24 年 5 月 27 日 11 時より情報総研大会議室において、出席者 146 名（委任状提出者 109 名）で、第 20 回総会が開催されました。

澤野会長が体調不良により欠席のため代わって宗田副会長が挨拶をし、引き続いて情報総研千葉所長殿その他ご来賓からご祝辞を頂戴しました。議事に入り、23 年度事業報告・会計報告および監査報告がなされ了承され、続いて 24 年度事業計画および予算が審議され、原案どおり承認されました。

新年度役員として、次の通り選任され新役員を代表して萩原新会長が挨拶をしました。

新役員は次のとおりです。

会長：萩原大義、
副会長　：市川洋子・宗田修幸、
事務局長：福本行宏、
会計　　：丸屋完、
幹事　　：藤本孝信・富山勝巳・木村充紀
　　玉田幸吉・桜井貫智・櫻木章惠
　　佐藤秋雄・森田茂・米倉常男、
会計監査：中野嘉博

なお、澤野前会長、浅見武彦、春原　猛、福田一進の 4 名が退任しました。

総会終了後、会場を事務厚生棟 2 階の食堂に移し恒例の懇親会に入りました。田中会員のご発声で乾杯を行った後、久方振りの出会いに旧友同士積もる話を肴に酒を酌み交わし宴席もおおいに盛り上がりました。話は尽きませんでしたが、定刻となり次回の再開を約してお開きとなりました。

平成 15 年に誕生した「桜船会」が 20 年の節目を迎えることはご同慶の至りです。

「この会は、会員相互の親睦と絆を更に深めることを目的とする。」という設立時の原点に立ち、今年も行事や会報の発行などを進めます。

さらに「桜船会」は情報技術総合研究所の中にある OB 会ですから、ネット情報を利用して会員間のコミュニケーションがとれるようなシステムを実現できれば、会員相互の親睦と絆を深める上で大いに役立つのではないかと思い、20 周年を機に一からではありますが取り組んで行きたいと思います。

H24 年度秋期バス旅行　（報告）

草津温泉と志賀高原散策　　桜井貫智

記録的な残暑が続く毎日からようやく解放され、秋らしくなってきた９月２６日の朝８時、参加者３２名を乗せて、バスは会社の南門を出発した。涼しい朝と素晴らしい快晴に恵まれて、何か良いことが起こりそうな予感のする旅の始まりである。

バスは鎌倉街道を経て、日野インターから高速に乗り、昼食場所の横川「おぎのやドライブイン」を目指し、昼前に到着した。ここでの有名な峠の釜めしは昭和３３年に益子焼の器を採用し、当時爆発的な人気で、益子焼業界全体に、大いに寄与したとのことである。食事後の器を大事そうに持ち帰る人も何人か見られた。

その後バスは次の目的地の志賀高原を目指したが、途中の道路沿線では真っ赤に色づいたリンゴ、たわわに実った巨峰、黄色が鮮やかな柿など、豊かな秋の里山風景が車窓から眺められ、久しぶりに心が落ち着く楽しいバスの旅となった。

志賀高原の散策では何人かの仲間と蓮池を目指し、近道の表示があったトンネルに入ったが、中は全くの暗闇で、足元も悪く、長いトンネルを不安と勇気をもって歩いたが、ようやくトンネルを出ても目的地の場所が分からず、結局時間切れで諦めて帰る途中、はからずも集合場所の近くに、あれほど必死に探した蓮池を発見し、全員拍子抜けで大笑いとなった。旅はこういう意外性のある体験が楽しい。

そのあとバスに 30 分ほど乗って、次の目的地白根山に到着。早速火口湖の湯釜見学のため約 20 分の山登りに挑戦したが、意外に急斜面で歩きにくく思ったより息が切れた。山の紅葉は全般に未だ早く、ナナカマドが少し色づきかけたところだったが、頂上から見た湯釜は見事なエメラルドグリーンで、しばし時を忘れて、その素晴らしい眺望に魅せられた。

草津温泉のホテル高松には 17 時前に到着。部屋で同室のメンバーと歓談した後、夕食兼宴会は 18 時半から大広間で開催された。約 2 時間、皆さん、ほろ酔い気分で旧交を温め、仲間同士の会話を楽しんでいた。それから草津といえば温泉、日本の 3 大温泉の 1 つで、湧出量が日本一。筆者は滞在中 2 回入浴したが、特に朝の五右衛門風呂が最高で、気持ちが良かった。中には 4 回、5 回と入浴した温泉好きの人もいたようだ。

翌朝は 8 時半にホテルを出発し湯畑まで歩き、その後のフリータイムでは西ノ河原周辺を散策し、途中での温泉まんじゅうや漬物の試食を楽しんだ。

次の目的地、軽井沢では昼食時間を挟んでのフリータイムに、聖パウロカトリック教会とショー記念礼拝堂を訪ねたが、両所ともに自然の中に融け込んだ意外なほど質素な佇まいで、良い印象をもった。

最後の立ち寄り地の碓氷峠の「鉄道文化むら」では、鉄道模型のジオラマを見学したが、実によくできていて、全員が時間を忘れて少年時代の顔で見入っていた。

帰路は 15 時に「鉄道文化むら」を出発。途中、若干の渋滞があったため、会社に着いたのは予定より約 40 分遅れの 18 時 50 分であった。2 日間とも良い天候に恵まれ、楽しい旅行を楽しむ事ができたが、これも最初から最後までご苦労いただいた行事班の皆様のお蔭です。本当にありがとうございました。

▼H24 年度秋期バス旅行・参加者 32 名（敬称略）

青木　功	石井　茂	安達　隼三	海野　英幸	木村　弘
木村　允紀	古宮　龍夫	斉藤　淳	斉藤　孝之	桜井　貫智
桜木　章恵	菅井　克男	宗田　修幸	高橋　久幸	竹内　秀義
玉田　幸吉	角田　清八	富山　勝巳	中條　光夫	中野　嘉博
萩原　大義	橋本　秀	福本　行宏	藤本　孝信	堀内　清美
丸屋　完	望月　竹郎	森田　茂	矢田　雅敏	矢地富士雄
米倉　常男	蓬田　規			

事務局だより

1．会員の動向(敬称略)　2012.08.17 現在　315 名

(1) 入会会員　6 名

- **小倉　基一**
- **田中　紀彦**
- **遠藤　茂**
- **貝吹　明**
- **沼田　孝治**
- **小澤　晃**

(3) 物故会員　3 名

- **姫野　鉄雄　2012 年 5 月 6 日　逝去**
- **三浦　和夫　2012 年 7 月 13 日　逝去**
- **中村　一夫　2012 年 2 月 27 日　逝去**
- **岩崎　輝男　2012 年 9 月 27 日　逝去**

謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

「桜船会だより」29 号は「桜船会」創立 20 周年に合わせて、20 周年記念号として発行することができました。ひとえに、会員の皆さまからの投稿・寄稿のお蔭です。また、お寄せいただいた原稿には、頁づくりの都合で幾度となくご面倒をお掛けしました。いちいちお付き合いいただき、改めてお礼申し上げます。「桜船会の歩み」は紙面の都合もあり、掲載した写真も疎らで十分とは言えませんが、思い出を引き出す付箋にしていただければ幸いです。

「桜船会だより」創刊は 1998 年です。それ以前の会発足からの 5 年間「創生期」の活動や写真など貴重な記録の整理という課題が残りました。皆さまの協力を得ながら電子データ化していこうと思っています。(藤本)

編集責任者　藤本孝信
編集委員　木村允紀
桜井貫智
佐藤秋雄
印刷所　(株) トーカイ